Narimasu Juku

難関大学・高校受験
成 増 塾

中学部【新中2生】
Guide Book

もくじ
CONTENTS

はじめに …… 1
中高一貫校の皆様へのアドバイス… 6
中高一貫校から合格した生徒 …… 8
公立中学の皆様へのアドバイス‥ 10
英語科の指導方針…… 14
数学科の指導方針…… 17
国語科の指導方針…… 20
理科・社会科の指導方針 …… 21

講師紹介

●英語科
高島 穣…… 22
竹内啓介 …… 24
真島信雄 …… 26
今村 尚…… 27
安藤勝美 …… 28
加藤剛史 …… 29
中山洵一 …… 30
●数学科
大北鑑哉 …… 31
高橋直人 …… 32
岳野雅継 …… 34
七沢明子 …… 36
森川翔太 …… 37
横山秀樹 …… 38
赤嶺幸隆 …… 38
●数学科・国語科・社会科
高島 穣…… 39
●理科
岳野雅継 …… 39
●社会科
中山洵一…… 39

スタッフ紹介 …… 40
成増塾アラカルト …… 41
合格者の声 …… 42
直筆でお伝えする合格者の声 …… 44
入会金・授業料 …… 48
特待生制度 …… 49
合格実績 …… 50
医学部セミナー …… 51
【座談会】現役医師と現役医学部生 …… 52
合格祝賀会 特別講演会他 …… 56
各メディア掲載誌紹介…… 57

表紙・本文イラスト
齊木友美

各メディアで高い評価を受ける、信頼と実績。

成増塾が長年に渡って築きあげてきた信頼と実績の数々がマスコミを通じて、各メディアに紹介されています。

日経BP社 「東京ストーリー 教育特集号」より

『東大にいちばん近い教室』として紹介されました。

「進学塾という選択」（日経プレミアシリーズ）より

日経BP社 「メディカルストーリー 教育特集号」より

その他、近年成増塾に関する記事が多数、各誌面を賑わしています。

はじめに

将来、難関大学への現役合格を目指す中学生の皆さまへ

難関大学に合格出来るかどうかは、中学生の時どれだけ勉強をしたかで決まる。

成増塾 塾長　高島 穣

都立戸山高校出身。早稲田大学法学部卒、同大学院修了。
学生時代より学習塾の講師をはじめ、英語教授歴は30年以上に及ぶ。
論理的で明快な説明が難関大学に合格した多くの生徒から支持されてきた。
大学での専門は憲法学で著書、論文多数。
2018年より千葉大学教育学部で非常勤講師として憲法を教える。

こんにちは、私たちは難関大学、難関高校への受験指導を専門とする少人数制の塾、成増塾（なりますじゅく）です。

この4月から新学年に上がる中学生のみなさまは新しい生活への希望で胸をいっぱいに膨らませていることと思います。

みなさまにとって大学受験はずっと先のことで、高校生にもなっていない今のみなさんにとってはほとんど関係のない遠い先の出来事といった印象が強いかと思います。公立中学に在籍するみなさまにとっては大学受験どころか、高校受験が目下の関心ごとであると思います。

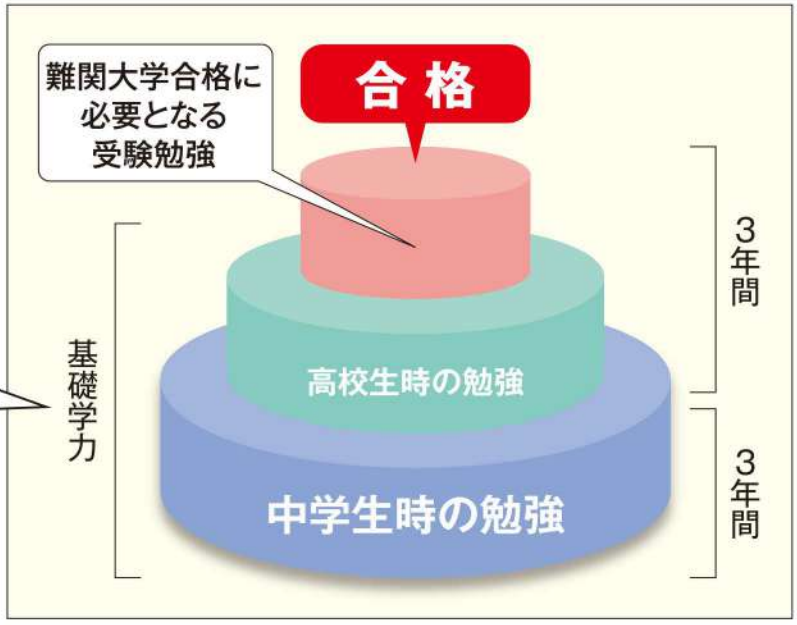
ですが、みなさまの中で「**将来は、東大、医学部、早稲田、慶応といった難関大学に合格したい**」と考えたことがある人にぜひ知っておいていただきたいことがあります。

それは「**難関大学に合格できるかどうかは中学の時の基礎学力がどれくらいできているかで勝負の大半が決まってしまう。**」ということです。

私は、今まで30年以上もの間、多くの中学生、高校生に英語を教えてきましたがそのことを本当に強く感じます。

難関大学を目指す多くの生徒は高校2年生の秋ごろから本格的に大学への受験勉強を開始しますが、その時点で基礎学力がある人とない人では、同じことを同じ時間勉強しても能率、定着率、進み具合が全く違うのです。

難関大学合格へは
中学生時の
基礎学力をいかに
身につけるかで
勝負は決まってしまう。



例えば英語を勉強することを例に考えてみましょう。

基礎学力ができている人なら、大学受験のための参考書や問題集で勉強を進めても、かなり自分の力で理解でき、どんどん進めていくことができるのに対して、基礎学力ができていない人は、そもそも解説や解答を理解すること自体難しく、それらの参考書や問題集で勉強しようとしても途中で挫折してしまうことが非常に多いのです。

では、基礎学力ができている人とできていない人はどこで差がついたのでしょうか。

答えは、中学生の時です。

なぜなら、大学受験で必要になる基礎学力は、英語にせよ数学にせよ、かなりの部分が中学生のときに習うことが土台になっているからです。

つまり、中学生の時の勉強、「基礎の基礎」とでもいうべき部分の勉強をおろそかにすると、大学受験の勉強を進めていく際の基礎学力ができていないという非常に困った状況に陥ることになってしまうのです。

2021年からの新しい入試にどう対処すればよいのか?

ここでみなさまに2021年から変わる入試制度に成増塾がどのように臨むかをお話ししたいと思います。

2021年から、現行のセンター試験は廃止され、それに代わり大学入試共通テストが実施されることになりました。

文科省は今回の入試制度改革にかなり気合いを入れており「戦後最大の入試制度改革」などと銘打っています。

その改革が主眼とすることは一言で述べるならば「知識暗記型の入試」から「思考力、表現力重視の入試」への転換です。

成増塾が20年以上も前からやっている事にやっと時代が追いついた!

多くの予備校、塾は新しい入試にどう対処すれば良いのか、頭を悩ませていますが、私たち成増塾はこの新しい入試に対し、何か特別の対策を新たに行う必要はなく、20年以上一貫してやってきた従来の指導方針で完全に対応できると自信を持って言うことができ

ます。むしろ私たちとしては「成増塾が20年以上も前からやっている事に文科省はやっと追いついてくれた！」というのが実は本音です。以下、それについてお話ししましょう。

成増塾は東大等の難関大学に合格するための塾として1996年にスタートしました。その当時、100人以上の大人数を詰め込む大手予備校が時代の主流だったのに対し、成増塾はあえて少人数で教えるスタイルをとりました。これは私がしばしば説明会でお話しする事ですが「難関大学の入試問題に対応できる学力は少人数のクラスで指導しなければ身につかない」と言う事実に基づくものです。

東大等の難関大学ではどの科目でも、単なる知識の暗記で対応できる問題ではなく、本当にその場で考える力があるかどうか、またそれを自分で表現できる力があるかどうかを試す問題が20年以上前から出題されていました。

思考力、表現力の養成は少人数制でないと不可能。

このような問題に対処できる学力をつけるためには、講師が大教室で多数の生徒を相手に一方的に講義を行ういわば「一方通行型」の授業ではなく、生徒一人ひとりの書いた答案に講師が逐一目を通し、生徒と講師の双方向のやりとりで進めていく「対話型」の授業を行わなければなりません。

では、受験生の思考力、表現力を見るために従来から難関大学が出題してきた問題とはどのようなものでしょうか？例えば東大等の英語で出題される要約問題はその典型です。

要約問題は解答例が複数できることが多く採点者は採点に多くの時間をかける必要があります。

東大が、そのように採点に大変手間がかかる問題をあえて出しているのはやはりそこまでしても質の高い学生をとりたいと入試担当者が考えているからなのです。

東大の問題は20年以上も前から思考力、表現力を問うている。

東大は、英作文でも単に「日本語を英語に直せ」という問題だけではなく、イラストを自分なりに解釈して説明する問題や、ある架空の場面を想定してその場面にいる人物だったらどう考えるか、といったことを英語で説明させる問題が出されます。

2(A) 下の絵に描かれた状況を自由に解釈し、30〜40語の英語で説明せよ。

▲1995年東大

2(A) 下の絵に描かれた状況を簡単に説明したうえで、それについてあなたが思ったことを述べよ。全体で60〜80語の英語で答えること。

▲2015年東大

上記イラストによる問題は東大が20年以上前から出題する自由英作文の問題例です。まさに現在、文科省が目指している「思考力・表現力を問う入試問題」の具体例と言えます。成増塾 中学部では中学生の内からこのような問題に取り組んでいただきます。

これも解答者が10人いれば10通りの答案ができると考えられます。これらの問題を解いた後1番大切なことは「自分の答案はどう評価されるのか」を十分な実力のある指導者に判断してもらうことです。生徒が沢山いる大教室ではそのようなきめ細かな指導を行うことは絶対に不可能です。

成増塾で行っているような、少人数、双方向の授業でのみ、それは実現することができるのです。

また、数学も本当に公式の意味を自分で理解しているかを問われる問題がしばしば出されます。

「円周率は3.05より大きいことを証明せよ」

これは以前東大で出題された問題です。円周率が3.14...であることは誰でも知っていますが、東大はその意味がわかっているかどうかをその場で考えさせたわけです。

次にしばしば「暗記科目」とされる社会科の問題を見てみましょう。東大の日本史ではかつて摂関政治をテーマに次のような問題が出題されました。

「次の文章は、数年前の東京大学入学試験における、日本史の設問の一部と、その際、受験生が書いた答案の一例である。

当時、日本史を受験した多くのものが、これと同じような答案を提出したが、採点にあたっては、低い評点しか与えられなかった。

なぜ低い評点しか与えられなかったかを考え、(その理由は書く必要がない)、設問に対する新しい解答を5行以内で記せ。」

いかがですか？こういう問題が出された時、問題集や参考書に書いてある参考答案を丸暗記してきた生徒は全く太刀打ちできずに思考停止に陥ることになります。東大等の難関大学では現に40年以上前から、以上のような、受験生の思考力と表現力を真の意味で問うような問題を出し続けているのです。
成増塾はそのような問題に対処できる学力を身につけてもらうために長年取り組んできました。

そのような取り組みを続けてきた私たちの指導方針はまさに「思考力と表現力」を問う2021年からの新しい入試制度が目指している方向とぴったりと一致している事がお分かり頂けたかと思います。

なぜ、プロ講師が中学生を教えるのか?

みなさんの中には「中学生の勉強なんて大学生でも教えられるのでは？」と思われる人もいるのではないでしょうか？

しかし、成増塾は中学生の勉強の指導者も大学受験まで指導出来るプロ講師が行なっています。

それは**「中学、高校の勉強は大学受験から見れば一体を構成しており全体を見渡せる指導者が教えることで初めて本質がわかる」**と私たちが考えているからです。これについて説明しましょう。

例えば、英語の文法学習では中学時に習う内容と高校時に習う内容は異なります。ですが、ある文法事項を中学生が習っている時に、もっと先を知りたいのに「ここから先は高校生になって習うことだから教えない」と言われたら、知的好奇心の強い中学生は納得できるはずはありません。

将来、東大や医学部を目指す知的レベルの高い中学生は納得できない人が多いのではないでしょうか？

「もっと先まで知りたい」という知的好奇心の強い生徒に対し「これから先は高校生になってから習うことだけど」と前置きした上で、全体像がどうなっているのか、今習っていることがその全体像の中でどこに位置するのか、をわかりやすく教えてくれる講師こそが最良の講師であると私は考えます。

成増塾で最も古い歴史を持つ、成増校の入り口風景。その年の難関大学合格者数を明示する、赤い看板がシンボルとなっています。

（写真左上）成増塾高田馬場本校の入り口付近。JR高田馬場駅戸山改札口（新宿寄りの小さな改札口）を出て徒歩1分の距離にあります。牛丼の「すき家」の奥のビルで2階は赤門クリニック、地下には美容室zingが入っています。（写真右上）3階部分には成増塾の赤い袖看板が出ています。

成増塾のプロ講師は大学受験も見すえた授業を行う。

また難関大学の受験指導ができるプロ講師の場合、中学生クラスでも大学受験の内容を授業に取り入れることがしばしばあります。例えば先ほど紹介したような東大の英作文の問題を私は中学生のクラスでしばしば扱います。

基礎力がしっかりしている中学生なら東大の英作文の問題でも自分なりに答案を作ることができます。

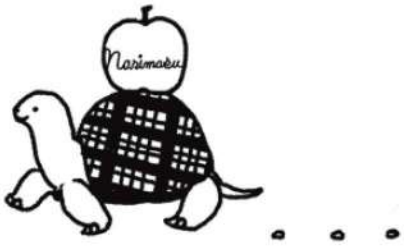
また中3生は夏休み以降、東大の要約問題等をどんどん解いていきます。将来東大を受験する中学生には、なるべく早い時期に東大の問題に触れさせることで「自分でも解けるんだ！」という自信を持ってもらうことができます。

これはもちろん英語の話だけではありません。

数学で紹介した円周率の問題や、日本史で紹介した摂関政治の問題、これらは中学生でも十分取り組める内容です。

今までの説明でお判り頂けたかと思いますが、将来東大等の難関大学を目指す知的好奇心の強い生徒に対して教える側で限界を設けてしまってはいけないのです。

私たち成増塾が中学部においても、大学受験まで指導できる最高レベルの講師が授業を担当するのは以上のような理由からなのです。



中高一貫校の中学入試を終えた皆さまへのアドバイス。

中学生としての生活を楽しみながら基礎となる学力を身に付ける。

中学受験を終えた人の中には「中学受験であれほど勉強したのだから少しはのんびりしたい」と思う人もいるでしょう。

もちろん、中学時代を勉強だけで埋め尽くす必要はありません。学校行事や部活、スポーツ、友人との楽しい語らいもみなさんの人格形成にとっては大いに必要なことです。

ですが、私は今まで「中学受験であれだけ頑張ったのだから」という気持ちの反動から、中学3年間、中学生として身に着けるべき基礎学力を身に着けてこなかった生徒が高校生になって**「中学生のときもっと勉強しておけばよかった」**と心の底から後悔しなければならない例をいやというほど見てきました。

だからこそ、このガイドブックを読んでくれているみなさんにはそのような後悔を絶対にしてほしくないのです。

ですが、それは何も「中学生のうちからあらゆることを犠牲にして勉強だけしなければならない」ということを意味するわけではありません。

成増塾に通う生徒は難関大学への現役合格をめざしていますが、勉強一辺倒の人は少なく、ほとんどの生徒は学校でのクラブ活動や運動会、学園祭といった行事と勉強をうまく両立しています。

中学生として様々な活動に参加しつつも将来大学受験の勉強をする際に必要となる基礎学力を身に着けることこそ、成増塾中学部が目指しているところなのです。そして、成増塾中学部はそれを現実に可能にする様々な工夫をしています（それについては後述します）。

「鉄緑か!?成増か!?」

著名な教育評論家、おおたとしまささんの著書の中で成増塾は「ガリ勉せずに東大に行ける塾」として紹介されました。

最近、朝日新聞、日経新聞を始めとする一流のメディアにしばしば登場している教育評論家のおおたとしまささんが書いた「ルポ塾歴社会」（幻冬舎新書）という本の中で、成増塾が紹介されました。

その本の中で、成増塾は、鉄緑会（東大に毎年多数の合格者を出す有名な塾）と比較され、「成増塾はガリ勉でなくても東大に合格することが可能な塾」として紹介されています。成増塾の教育方針や理念が有名な教育評論家の方の目にとまり評価されたことを私たちはうれしく思います。

※詳細を知りたい方はどうぞ「ルポ塾歴社会」124-142ページをご一読ください。

ここで、成増塾中学部で中1の時から勉強を始め、見事第一志望の日本医科大学に合格した内田裕大さんを紹介します。彼は国立大学医学部にも合格しています。

内田さんは、一言でいえば「オールラウンド型」の受験生、つまり、コツコツと努力を重ね、すべての科目で高得点をとれるタイプの生徒でした。

中1から高2くらいまで私の英語と高橋講師の数

授業では小テストがおこなわれます。生徒は授業内容を小テストで確実に身につけます。

学を受講、その後、門脇講師の英語、押川講師の数学を受講してくれました。

内田さんは中学の時から合格するまで常に成増塾で特待生の地位をキープしてくれました。特待生をずっと維持した、と書くと、「最初から頭がいい、よほどの秀才だったんだ」と思う人が多いと思います。

常に努力したからこそ成増塾の特待生を維持し続けることができた。

確かに内田さんの理解力やセンスの良さは私が教えた生徒の中でも強く印象に残るものです。しかし、彼が成増塾で特待生を維持できた最大の理由は彼がどんな時も努力をし続けることができた、ということです。

彼は練習が厳しい体育会系の部活にも参加していました。しかし、彼は定期試験前や学校の行事の準備などでどんなに忙しい時でも必ず授業の予習を完璧にしてくるのです。これはなかなかできることではありません。

難関大学に合格した生徒の合格体験記を読んでいると「合格の秘訣は当たり前のことを当たり前にこなすことです」などといった記述を目にすることがあります。

定期試験前の忙しい時期に完璧に授業の予習をして必ず塾の授業に出席することは、普通の生徒にとっては決して当たり前のことではないのですが、内田さんにとっては「当たり前のこと」だったのです。彼の勉強への真摯な態度を見ると**「やはり実績を残す人間は『当たり前』のレベルが普通の人よりはるかに高いな」**と私は感じずにはいられません。

また、彼は人格的にも素晴らしく、いつも礼儀正しくユーモアもあり、成増塾の他の生徒の間でもとても人気がありました。彼のような人間が医学の道を歩み始めたことを私は大変嬉しく思います。彼は患者さんの気持ちがわかる素晴らしいお医者さんになると思います。

彼が夢を実現するお手伝いができたことを私たちは大変誇りに思います。

成増塾 中学部出身生徒の証言 1

中1から成増塾に通い、特待生をずっとキープ。第一志望の日本医科大学に見事現役合格!

日本医科大学医学部 合格
徳島大学医学部 合格
帝京大学医学部 合格
内田裕大さん
暁星高校

成増塾では中学1年生から高校3年生まで、6年間、お世話になりました。数学の授業は基礎をかなり深く理解でき、演習を積むことで応用的な難問をすらすらと解くことができるようになりました。また、発展のプリントをくださり、生徒一人ひとりにあったカリキュラムを与えてくださるので、とても順調に成績を伸ばすことができました。授業外での質問などにも親切かつ丁寧に教えてくださり、数学を楽しく、早く完成させることができました。

英語は文法、解釈、長文読解の全てが、上手くカリキュラムに組み込まれていて、受験において最大の武器になりました!物理は高3の4月に偏差値が40台でしたが、センター試験では9割を超えられるくらい素晴らしい授業でした!中1から6年間本当にお世話になりました!

成増塾の各校舎には合格者から送られてきた直筆の合否報告がはり出されています。生徒はこれを見ることで難関大学に合格していった先輩方の生の声を知ることができるのです。

中高一貫校で英語を得意科目にして、医学部、国立難関大学に見事合格した生徒の皆さん。

次に紹介するのは中学部で英語の基礎固めをしっかり行い、見事に医学部や国立難関大学に合格した生徒さんたちです。

現役で難関医学部に合格した鴻野さん。中3では大学の入試問題を解ける実力をつけていました。

まず、最初に紹介するのは中１の時から私が担当する英語の講座を６年間受講し、英語を得意科目にして見事に東京医科大学医学部に現役合格した鴻野暁さんです。

鴻野さんは大変まじめな生徒さんで、私の記憶では学校の定期テストがあるときもほとんど塾の授業を休んだことはなく、中３の夏休みには余裕をもって英検２級に合格してくれました。

そして、中３の夏休み以降は大学受験レベルの英文の読解にも取り組み、高校に入学する時点ではセンター試験の英文を正確に読みこなせるようになっていました。

高校に入学する時点でそのように高い基礎力があったので英語は圧倒的な得意科目になったことはもちろんです。高３になるころには難関大学の入試問題を自力で解ける実力がついていたので、余った時間を数学や理科に充てることができたことが医学部に現役合格することができた最大の勝因でした。

鴻野さんは本当によいお医者さんになってくれると思います。

成増塾 中学部出身生徒の証言 2

東京医科大学医学部合格
鴻野 暁さん
巣鴨高校

★成増塾には中学に入学してから合格するまでずっと通っていました。中学生の時点で文法をすべて完成させてくれたので英語が得意科目になりました!本当にありがとうございました。

日本医科大学に特待生で合格した山村綾乃さん。

次に紹介するのは日本医科大学医学部に特待生で合格した山村綾乃さんです。山村さんも中1の時から私が担当する英語の講座を６年間受講してくれました。中学時には英語をかなりの得意科目にすることができていました。

そのようなしっかりとした基礎力を中学時に身につけてくれていたので高校生になってから外部の模擬試験でも英語の成績はトップレベルを維持することができていました。

ただ、山村さんは成増塾で受講していたのは英語だけだったため、数学、理科の学力が足りず、現役時には志望していた医学部に惜しくも不合格になってしまいました。その後は成増塾高卒部で中島ひろや先生に英語の指導をバトンタッチしました。

中学、高校で身につけたしっかりした基礎力があったため、英語にはあまり時間をかけずに、苦手科目だった数学、理科にしっかりと時間を注ぐことができ、翌年には見事、日本医科大学に合格してくれました。しかも、特待生での合格には本人もびっくりしていたようです。合格後にお父様が挨拶に来られ「この塾に通わせて本当に良かった」と言ってくださったことは私どもにとって最高のお言葉でした。

成増塾 中学部出身生徒の証言 3

日本医科大学特待生合格
山村 綾乃さん
白百合女子学園

★好きな教科だった英語がさらに大きく伸びました。日医で特待生になれたのは中学から基礎力を固めた英語のお蔭だと思います!特に長文の読み方が変わり、時間に余裕ができました。先生の講座を受講して本当に良かったです。

中学1年から成増塾に通い続け、第1志望の日本医科大学に特待生で合格した山村綾乃さん。山村さんは「日本医科大学に特待生で入学出来たのは、中学生から成増塾で基礎固めをしっかりやっていたから」と話してくれました。

東工大に合格した個性あふれる下山紗季さん。

最後に紹介するのはやはり、中学部から私の講座を受講し英語を得意科目にして第一志望の東京工業大学に現役合格してくれた下山紗季さんです。

下山さんは私の授業にとても積極的な姿勢で参加してくれました。わからないところや納得のいかないところがあると授業中になんでも質問をしてくれたため、クラスの他のメンバーにとっては非常によい刺激になったと思います。

彼女のようなユニークな発想ができる人は将来良い研究者になれるのではないかと期待しています。

成増塾 中学部出身生徒の証言 4

東京工業大学合格
下山 紗季さん
鷗友学園

★訳すときに気を付けるべきポイントがおさえてあってわかりやすかった。センター前には発音・アクセントや文法の演習をやってくれた。

以上紹介した3人はいずれも中高一貫の進学校に在籍していた生徒です。

3人とも勉強をやっていただけでなく在学中は部活動や学校の行事にも参加し中学、高校での学園生活を満喫していながら最終的にはそれぞれの志望大学に合格することができました。

公立中学に進み高校受験を目指す皆さまへのアドバイス。

公立中学でも中高一貫校でも中学生の勉強のスタートラインは同じです。

成増塾中学部は中高一貫校に通わない、地元の公立中学に通う生徒も在籍しています。

公立中学に進まれるみなさまの中には「自分は高校受験で勝負する」と考えてあえて中学受験をしなかったという方ももちろんいると思いますが、もしかすると中学受験をしたけれど志望の中学に合格できなかったので地元の公立中学に行くことになったという人もいるかもしれません。そのような生徒の中には「自分は中学受験で失敗したから成増塾のような難関を目指す塾に通うのはムリ」と思う生徒もいるかもしれません。

しかし、そんな心配をする必要は全くありません。私は今まで公立中学に通うたくさんの生徒を教えてきましたが、そのような生徒の中には私立、国立の有名な中高一貫校に通う生徒よりもできるようになる生徒が珍しくないのです。

中学生としての勉強のスタートラインは中高一貫校でも地元の公立中学でも全く同じです。

私は地元の公立中学に通う、そのような生徒こそ成増塾中学部に積極的にチャレンジしてほしいと思っています。私たちは塾の方針として入塾するための選抜テストをしていません。**これは難関高校、難関大学を目指す生徒にはだれにでも平等なチャンスが与えられるべきだし**、実際、やる気がある生徒なら正しい方法でよい指導者の下で勉強すれば自分も周囲も驚くくらい成績を伸ばせることを長年の指導経験から知っているからなのです。

受験勉強はマラソン競技と同じ。早くスタートを切った人が圧倒的に有利。

私は、30年近くに及ぶ長い受験指導経験から「受験勉強はマラソン競技に似ている」と思っています。

2時間半以上にも及ぶ長い時間をかけて行われるマラソン競技で、足の遅い人が、足の速い人に絶対に勝てる方法が一つだけあります。それは自分だけスタートを早く切ることです。どんなに足が遅い人でもスタートを早く切れば、足の速い人に確実に勝つことができます。ですが、実際のマラソン競技ではスタートを早めることはできません。しかし、受験勉強とマラソンが違うのは、受験勉強はどんなに早く準備を始めてもそれが許されるということです。

受験勉強では早いスタートを切れば、理解力、記憶力が劣る人でも、自分よりずっと頭の良い人に勝つことができるのです。逆にスタートが遅ければどんなに理解力、記憶力の良い人でも受験というマラソンには負けてしまいます。「自分は東大や医学部に合格できるはずはない。」と考えているような人でもスタートさえ早く切れば、十分それらの目標を狙うことができるのです。

自習スペースは授業のない日でも予習復習に使えます。

次に紹介するのは、2011年に中1になったときから成増塾で勉強を開始し、6年後の2017年に見事、第一志望の東京工業大学に現役合格した高澤寛治さんです。

高澤さんは、成増塾西葛西校で私の英語と高橋直人講師の数学を6年間、受講してくれました。

高澤さんは地元の公立中学に通っていたので、成増塾から高校受験をしました。彼が受験したのは偏差値72の難関校、東京工業大学付属高校です。しかし、結果は惜しくも不合格。英語、数学は成増塾で中1のうちから勉強をしていたので着々と実力をつけ、東工大付属でも軽々とお釣りがくるくらい高い学力を身に着けることができたのですが、問題は他の科目、特に機械的な暗記が必要な社会科でした。

彼は理系の生徒によくありがちな、いわゆる「機械的な暗記が苦手な生徒」でした。

私は、成増塾で長年指導をしていてこのようなタイプの生徒にしばしば出会ってきました。数学や物理が抜群にできる生徒に多いのですが、不思議なことに機械的な暗記が全くできない生徒が一定数いるのです。こういう生徒に英単語の機械的な暗記をやらせてもダメです。単語集で範囲を決めて小テストなどをやっても、ほとんど点数が取れません。頭の構造上、意味があることしか記憶できないのです。高澤さんもまさにこのタイプの生徒でした。

高校受験は志望校不合格。しかし、大学受験では見事に第1志望校に合格。

高澤さんが受験した東工大付属は5教科の合計点で合否が決まります。東工大付属のような難関校では英語、数学だけでなく、どの科目でも満遍なく高得点を取る必要があります。機械的な暗記が苦手な高澤さんにとって、暗記することが多い社会科は苦手科目。最後まで苦手意識を払拭することができず、第一志望の東工大付属は不合格となってしまったのです。

ですが、私はこの結果に全く悲観はしませんでした。なぜなら私は中3まで英語を教えていて高澤さんの長所を十分理解していたからです。彼は、機械的な暗記は苦手なものの、それ以外の部分、例えば、大学受 験で要求される、複雑な構造の英文に取り組んでそれを正確に分析する力、長文に食らいついていく粘り強い忍耐力、自分の知っている知識をつなぎ合わせて必要十分な英文を構成する力に関しては卓越したものを持っていました。

また、一見機械的な暗記が必要と思える英文法に関しても自分の頭で納得したものに関してはかなり前に勉強したことでもしっかりと覚えており、マスターしています。

さらに、高澤さんの数学的センスに関しては、数学を担当する高橋講師からいつも話を聞かされていました。高橋講師は「高澤くんはすごいですね！ 僕でも思いつかないような別解を思いつくことがよくあるんですよ！」などといつも嬉しそうに話しています。

このように、英語を担当する私と数学を担当する高橋講師は、高澤さんが持っている潜在的な能力がわかっていたので東工大付属高校受験での失敗は全く悲観視しなかったのです。つまり、東工大付属には不合格でも、3年後の大学受験では東京工業大学に合格できることを確信していたのです。

授業内で行なわれる小テストは制限時間を設けて行われます。生徒は常に時間を意識するので実戦感覚が自然と養われます。

奇跡の逆転を可能にした東工大の入試制度。

高澤さんが高校受験では失敗したものの、大学受験では東工大に合格できるだろうと考えていたのには理由がありました。それは東工大の入試科目における配点です。

みなさんもご存知のように国立大学の入学試験はセンター試験と二次試験の合計点で決まります。そして、この点数配分は大学によってさまざまです。センター試験を重視する大学もあれば、二次試験を重視する大学もあります。また両者を半分ずつ評価する大学もあります。

その中で、東工大は極端に二次試験を重視する点数配分を行っています。具体的にはセンター試験と二次試験の点数配分が0対750なのです！（共通テストでも同様。）これは、センター試験を受験しなくていいということではなく、センター試験で一定の足切りラインを突破したら、あとは東工大の二次試験の点数だけで合否を決めるということなのです。そして、足切りに必要なセンターの点数は950点中600点、つまり3分の2に満たない点数なのです。これなら暗記科目の社会科がほとんど取れなくても十分にクリアできるラインです。

そして、二次試験の点数750点の内訳は数学300、英語150、化学150、物理150です。東工大の数学、化学、物理の問題は難しいのでこれらの理系科目の問題が解ければ英語の点数は多少低くても大丈夫です。高澤さんは化学の中で暗記が必要な有機化学などの分野に不安を抱えていましたが数学、物理、そして英語で高得点をとり見事合格してくれました。

人生は短期的な勝負ではなく長期的な勝負で決まる。

私たちは、今お話しした高澤さんの成功例から何を学ぶことができるでしょうか。それは「人生は短期的な勝負で決まるわけではなく長期的な視点を持った勝負こそが重要だ。」ということです。

勉強を続けていなかったとしたら彼の大学受験での成功もあり得なかったわけです。高澤さんがやる気を失くさなかったとしても親や先生方が悲観視したらそれは必ず本人にも伝わります。

彼が通っていた都立科学技術高校は理系の生徒の個性をのばしてくれる素晴らしい学校ではありますが、進学校としての実績はそれほど高くなく、彼の高校から東工大のような難関大学に合格することは珍しいことです。科学技術高校の先生方も高澤さんが東工大に合格したことを知ってさぞかし驚かれたことと思います。

ですが、正しい方法論に基づいて地道に勉強を続ければ一見不可能に見えるようなことでも成し遂げることができることは高澤さんの成功例からも明らかです。ただし、このようなケースは、実際は非常に少ないのが現実です。なぜか？それは生徒が長期的な視点を持つ指導者と巡り合える可能性が非常に少ないからです。

長期的な勝負で勝つには長期的な視点をもつ指導者と出会う必要がある。

幸いなことに成増塾で、私は英語、高橋直人講師は数学を、中1から高3まで一貫して6年間、高澤さんに指導することができました。6年間も指導すれば彼の学力面はもちろんのこと性格面に至るまで、弱点も長所もかなりの部分を知ることができます。そして生徒の学力面、性格面でのそのような理解があるからこそ長期的な視点に立つ指導をすることができるのです。高澤さんが東工大に合格できたのはもちろん、なによりも本人の努力、それを支える保護者様の理解と温かい応援、学校の先生や友人たちからのサポート、これらすべてがあって始めて実現できたことであることに疑いはありません。私たちは彼が夢を実現するほんの少しのお手伝いをすることができたことを大変うれしく、また誇りに思っています。

高澤さんご本人から、また、お母さまからも大変ご丁寧な感謝のお手紙をいただくことができました。高澤さんには今後、日本を動かすような科学者になって欲しいです。

成増塾 中学部出身生徒の証言 5

公立中に通い、中1の時から成増塾で勉強、高校受験では成果を出せなかったが、6年後、第一志望の東京工業大学に見事、現役合格!

東京工業大学第5類 合格
早稲田大学基幹理工学部 合格
東京理科大学理工学部
電気電子情報工学科 合格
髙澤 寛治さん
都立科学技術高校

プロフェッショナルの技術と熱意で指導していただきました。オリジナルの教材の長文読解で扱うテーマは、どれも興味をそそられる内容で、取り組む意欲が沸くものでした。とくに、構文解析の説明は非常に論理的で、理系の自分には腑に落ちるものでした。私は、公立中学1年の1月から先生に英語を教えていただいたのですが、中3の頃には、辞書さえあればたいていの文章を英作文できるようになりました。また、高校2年の頃には辞書さえあればたいていの英文読解ができるようになりました。入塾当時、既に4月からいたメンバーは高校の内容に入る直前だったので、毎週毎週皆の進度に追いつくまで、根気強く補講をしていただきました。その情熱は、高3の入試直前までずっと変わることなく、講義の所定時間を大幅に延長してでも生徒が完全に理解できるまで説明して下さる先生に出会えたことで、単語の暗記が大の苦手であった自分が、東工大入試英語で6割位得点することができたと思っています。

髙澤寛治さん、お母様からの手紙

受験では、大変お世話になりました。
西葛西校で高島先生英語、高橋先生数学を履修しました、
髙澤寛治の母です。

センター試験後、インフルエンザに罹患してしまい、早慶・東工大本試験に向けて最後の追い込みの時期、家庭ではなかなか勉強に身が入らず親としては非常に心配でしたが、成増塾で高島先生・高橋先生に熱心に手厚くフォローしていただき、無事、東工大第5類に入学することができました。本当に、ありがとうございました。
東工大入学後も、英語では、表向きは能力別でクラス分けすると宣言されていないものの、担当教授によると成績上位のクラスでレベルの高いメンバーと共に学ぶことができております。

数学・物理・情報系専門科目においても優秀な成績を収め、線形代数の授業では教授の板書の誤りを指摘したり、実験のグループでも他学生が知らなかった外積等の知識を教えたり、成増塾でご教授いただいた本質的な学問が活きているようです。

また、ゲーム制作サークルに所属し、学業とともにサークル活動も楽しんでおります。
これから、また高3生・既卒生達の追い込みの時期となりますが、ご自愛下さいませ。

入学式の写真。東京工業大学の入学式にて晴れの日を迎えた髙澤寛治さん。

成増塾 合格祝賀会にて。右端が髙澤寛治さん、中央が数学担当 高橋直人講師、左端が英語担当 高島講師(塾長)。
髙澤さんとの6年間の思い出、喜びと苦労を語り合いました。

2021年、成増塾 中学部 各科目の指導方針、進度と到達目標

英語科の指導方針

中学3年間【2021-2024】高校3年間【2024-2027】
成増塾で勉強するとどこまで
英語は伸びるのか。

成増塾中学部英語クラスのおおまかな
到達目標は次の通りです。

【中学初級】
中学3年分の英語の枠組みを作る。

【中学中級】
高校英語の文法事項を学習する。英検準2級合格。

【中学上級】
全員が英検2級～準1級に合格。
東大・早慶の入試問題にも取り組む。

【高校初級】
英検準1級に合格。センター試験9割得点。

【高校中級】
英検1級に合格。難関国立大学で高得点。

【高校上級】
東大等最難関レベルの問題で高得点できる学力。

★中学初級→中1レベル
中学中級→中2レベル
中学上級→中3レベル
高校初級→高1レベル
高校中級→高2レベル
高校上級→高3レベル を想定していますが、学力が高い場合には講師の判断で飛び級等の対応を適宜行っています。

毎年、下記のような速いペースで進んでいますがしっかり復習をしてくれれば途中でついてこられなくなることはありません。復習時間は1日10-15分を目安にしてください。記憶を定着させる観点からすると、復習は塾に来る直前に復習をするのではなく10分でも15分でもよいので毎日行うことが大切です。英語に関する限り、成増塾の授業だけでどんな難関高校、難関大学でも余裕をもって合格する実力がつくことがお分かりいただけると思います。みなさんも先輩に続いてがんばりましょう

【中学初級クラス】
中学英語の全範囲（文法事項）をひと通り学習します。受講者はこの講座で、中学で学習する英語の全体像が把握できるようになります。

例年、成増塾の授業では夏休みまでに中1の内容を終え、夏休みからは中2の内容に入ります。10月ごろから中3の内容に入り、翌年の1月には公立中学が中学3年間で学習する内容は一通りやり終えます。

英文読解は中学の文法事項の学習が終了した時に本格的に開始します。中学の文法事項の学習が終了していれば自分の力で理解しながら読める本は格段に増えるからです。

【中学中級クラス】
初級クラスで学習した内容を復習しつつ、公立中学では学ばない高校範囲の内容、例えば仮定法や複合関係代名詞などの文法事項を学習していきます。この時期は、初級クラスで学習した内容をさまざまな形で組合せ、完全に使いこなせるレベルまでみなさんの学力を高めます。また、単語、熟語も大学受験で出てくるレベルのものをたくさん学習します。単語や熟語は、単語集・熟語集で暗記することも最後には必要ですが日常の学習で使いこなせるようになれば機械的な暗記で無駄な時間・労力を使うことはなくなります。

成増塾の授業を受けていれば、特別に単語・熟語の勉強をしなくても大学受験で必要なもののほとんどをカバーできることになります。高校受験組の方は高校入試の英語の問題についている単語の注を参照せずに本文を読み進めることができるようになります。

【中学上級クラス】

中学中級クラスを終えるころにはみなさんは文法事項に関してはセンター試験などの基本的な大学受験の問題を解けるレベルにまで達しているはずです。

ちなみに、高校入試の問題について言及すると、灘や開成といった難関高校の入試問題は大学受験の基本～標準レベルの問題と同程度です。現在、高校入試の問題で一番難しいのは灘高です。灘高校の入試問題の中には国立大学で出題されるのと同程度のものもあります。東大理Ⅲ（医学部）や文Ⅰ（法学部）を狙う生徒は灘高校の入試問題で合格点をとれるようになる必要があります。

公立中学に通う高校受験組の生徒には夏休み前くらいから各自の志望高校の入試問題を課題として出し、個別に指導を行っています。

この時期から英検やセンター試験で出題された英文を使って本格的に読解の力を養成していきます。中3が終了する時点で英検2級に「満点で」合格することが目標です。ただ合格すればよいというのではなく「満点で」合格することを目標にすることが大切です！

【高校初級クラス】

英検準1級レベルの英文を正確に日本語に訳せる読解力を養成します。ちなみに、「英検に合格する」ことと「英検の問題を正確に読める」ことは同じではありません。英検の問題は記号式なのであてずっぽうにマークしても合格点(6-7割)が取れてしまうことがありますが、それは「正確に読める」ことを意味しません。

センター試験の英文はほとんどが英検2級レベルですが、英検2級に合格するだけではセンター試験の点数はせいぜい5-6割くらいしかとれません。成増塾では英検準1級を高1のうちにとることを目標にします。英検準1級の問題が正確に読めれば、東大の問題（要約問題等）でもかなり読むことができるようになります。高1の生徒は早い人ならこの時期に東大の英語の問題を正確に読めるようになっています。

【高校中級クラス】

英検準1級に合格するレベルだと、東大をはじめとする難関大学の問題でも時間さえかければ正確に読めるようになっています。中級クラスでは英検1級レベルの英文にも挑戦していきます。ここでも基本は「正確に読む」ことです。1級レベルの英文が正確に読めるなら、東大以外の国立大学の問題は制限時間内に合格点を上回る高得点をとることができるようになります。東大の問題でも合格点(6割)をとることができるようになります。早稲田・慶応といった難関私立で出題される英文の中にはこのレベルを超える英文（NewsweekやScience等、ネイティヴが読む雑誌に手を加えていないそのままの英文）がありますが、そのようなものであってもほとんどを正確に読むことができるようになります。中級クラスで英検1級に合格することを目標にします。

【高校上級クラス】

この学年ではこれまでに身につけた英語の読解力を生かし「英語を楽しむ」「入試問題を楽しむ」ことを実践します。毎回、難関大学の入試問題を解き、どんな形式の問題が出ても確実に合格点をとれるようにさまざまな問題形式に触れ得点力を身につけます。

他の受験生が英語に膨大な時間を費やしている間、成増塾の生徒は英語の力を維持する程度に勉強するだけでどの大学でも合格点を圧倒的に上回る得点をすることができるようになります。

中学部の英語の授業ですが、内容面では文学、哲学、歴史、法学の話が登場することもあります。そのような知的な時間を共有することは生徒の知的好奇心を育むことに少なからず影響を与えます。

成増塾の「多読指導」に対する基本的な考え方。

英文の多読指導は「生徒に自分の現在の英語力で読める本をどんどん読ませる」指導法で近年、多くの学校で取り入れられるようになってきています。

英文多読には英語の学力を総合的に向上させる効果があります。

多読により多くの英文に接することで生徒は知らず知らずのうちに英語に対してネイティヴスピーカーと同じような感覚をもち、英語を英語のままで理解することができるようになります。

また多読指導には英文に対する理解力を深めるとともに、英文を読む速さを飛躍的に高めリスニング力を向上させる効果もあります。

文法学習を前提としない多読指導では難関大の入試には不十分です。

このように英文の多読指導には多くのメリットがある反面、文法学習と組み合わせないで多読だけを行う場合、一定の効果を上げるには3年以上の長い時間が必要になります。また、文法学習を受けずに多読だけで英語を学んでいる生徒は英文構造を文法的に正しく理解することができるようになりません。

多読指導を行う一部の学校や塾の中には「文法学習は英語を身に着けるのに有害である」という考えに基づき文法学習を軽視しほとんど行わないところがあります。そのような指導を受けている生徒はいつまでたっても文法的に正確に英文を読んだり書いたりすることができるようになりません。

私は成増塾で英語を指導する中で、文法学習を軽視し多読やリスニングだけで英語を学んできた生徒に出会うことがあります。そのような生徒は「英文の内容を素早く大雑把につかむことは得意だが、正確に英文を読んだり書いたりすることは苦手」であることが非常に多いのです。

成増塾で行うのは文法学習を前提とした上での多読指導です。

難関大学の入試英語は現在でももちろん「読み、書き」を中心に行われています。大学で勉強するには英語の文献を正確に読み、文法的に正しい英文を書けることが当然の前提だからです。国立大学の英語の問題を見ればすぐにわかる通り今でも入試問題の多くが「下線部を和訳せよ。」とか「下線部を英訳せよ。」といった英文和訳、和文英訳で構成されています。

また東大を始めとする全国の難関大学では要約問題や英文中の下線部を説明する問題が必ず出題されます。これらの問題で合格点を取るには「英文の内容が大雑把にわかっている」というだけでは全く不十分で、文法的に正しく英文を理解していることが絶対に必要となります。つまり、英語を文法的に正確に読んだり書いたりすることができなければ入試の英語で合格点を取ることはできないのです。

成増塾は以上のような難関大学の入試英語の現状を前提とし、入試問題を確実に解ける真の英語力を身に着けてもらう指導を目指しています。すなわち成増塾で目指している多読指導は「文法学習で正確に英文を理解できるようにした上での多読指導」なのです。

成増塾での英語指導の基本的な考え方は「文法学習で正確に文法的理解をすることは英語学習において決して有害なことではなくむしろ多くのメリットがある」というものです。

以上私が述べてきたことから、このような考え方こそがどんな難関大学の入試でも確実に突破できる正しい考え方であることをご理解いただけたことと思います。

成増塾で英検対策も万全!

中学生の時、英語力アップの目標のひとつとなるのが英検です。成増塾ではどの英語講師も英検対策をしてくれます。

2次試験の面接対策も成増塾では無料で指導を受けることが出来ます。

数学科の指導方針

数学学習の重要性

文系でも国立大は数学が合格の決め手になる! 早稲田の政経も2021年より数学が必須科目に! 数学が不得意な生徒は大学受験でも圧倒的に不利な立場に立たされてしまいます。

これから成増塾での数学の指導方針について説明する前に、数学の勉強が将来みなさんが大学を受験するに際しどのくらい重要になるかを説明したいと思います。このガイドブックを読んでいる方の中にはもしかすると「自分は将来、大学の文系学部に進むから数学は学校の定期テスト対策をするだけでよい」と考えている人もいるかもしれません。
しかし、実はそのように考えることは大きな間違いで、数学が不得意な生徒は文系学部を目指す場合にも将来の大学受験で圧倒的に不利な立場に立たされることになってしまいます。

まず、文系学部を目指す生徒でも国立大学では必ず数学が受験科目に含まれます。つまり数学が苦手であると、その時点で、国立大を目指す生徒は、理系はもちろん、文系も合格の可能性はほとんどなくなってしまうのです。

また、早稲田大学の看板学部である政治経済学部は2021年より数学を必須科目にすることにしました。私立大学のトップである早稲田大学のこの決定は今後他の大学にも大きな影響を与えることが予想されます。難関私大の中には早稲田の政経にならい、数学を必須科目にするところが今後数年で沢山出てくると考えられます。

難関大学の入試は文系でも数学が得意だと受験は圧倒的に有利になる!

また、早稲田の政経のように私大文系で数学を必須科目にしなくても、選択科目で数学を課す大学は現在ですらたくさんあります。

例えば慶応大学の看板学部である経済学部では数学を必須科目にする受験方式としない方式がありますが数学を必須科目にする受験方式の方が合格するのは易しいと言われています。

なぜなら選択科目を社会科にした場合、日本史や世界史を勉強しなければならなくなりますが、それらの歴史科目の難易度は著しく高く、学校で使用している教科書では対策が全く不十分にしかできないからです。

ちなみに学校の定期試験で満点を取る学力がある生徒でも早稲田や慶応の入試問題はせいぜい3割しか得点することができません。

早稲田や慶応の日本史や世界史で合格点の7割を取ろうと思ったら教科書以外の参考書や問題集でも勉強をしなければならず、多くの受験生は膨大な時間を費やすことを余儀なくされています。

それに対して文系学部でも選択科目で社会でなく数学を取った場合、数学の問題のレベルは早稲田、慶応でもそれほど高くはなく、ほとんどの問題は学校で使っている教科書の章末問題レベルです。

つまり早稲田、慶応と言えども数学受験をすれば学校で使っている教科書の章末問題が解ければ9割以上の高得点を取ることができるのです。

このように文系学部を受験する生徒も数学を苦手科目にしなければ他の生徒に対して圧倒的に有利な立場に立つことができるのです。

医学部も数学が合格の決め手になる。

また、医学部受験でも数学が得意な生徒は他の生徒に対して圧倒的に有利な立場に立てるのに対し、数学が苦手な生徒は圧倒的に不利な立場に立たされてしまいます。

その理由は数学ができる生徒と、できない生徒は数学の得点率が圧倒的に違うということです。

数学は英語や国語と違い、できる生徒とできない

生徒の得点差が大きく、この得点差を他の科目で補うことは不可能と考えられます。

また、数学の偏差値は英語と比べると上げにくいと言われています。なぜなら、英語は文系理系を問わない共通科目であるのに対して、数学は理系受験生及び数学を選択した文系受験生のみが取る科目であるため、数学の偏差値の母集団のレベルが英語より高いからです。

このため数学の基礎が不安定な受験生は数学の偏差値を上げることが非常に難しく、少なくとも早稲田慶応の理系学部と同じくらいの高い偏差値がなければ合格できない、私大医学部に合格するために何年も浪人する生徒がいるわけです。

多くの私大医学部では浪人の年数が長ければ長いほど入試で不利に扱っているので、数学が不得意科目になると事実上医学部への入学は不可能になってしまいます。

数学が得意な生徒は物理も高得点を取る傾向があり入試では圧倒的に有利になれる。

さらに、数学が得意な生徒は物理でも高得点を稼げる傾向があります。

これは物理はいわば数学の延長線上にある科目と言われているためで、物理はいったん得意科目にしてしまうと高得点で安定する傾向があります。

また、物理は覚えるべき公式の数も少なく習得に要する時間が少ないと言われています。

これに対し数学が苦手な生徒は物理を避け生物を選択する傾向が強いのですが生物は生物学会の最新の動向が入試問題にも反映されており、教科書では扱っていない難問等が出題されることも多く、科目としての安定度も低い事が知られています。

以上説明してきたように数学を得意にできるかどうかは将来みなさんが大学を受験する際に非常に重要な意味がある事がお分かり頂けたことと思います。

数学の学力を伸ばすのに必須の論理的思考力と表現力を早い段階で身に着ける。

成増塾中学部 数学科の目標は「数学の学力の土台となる論理的思考力と表現力」を身に着けてもらうことです。

難関大学の数学の問題で重要なのは論理的思考力と表現力です。これが具体的に何を意味するのかをこれから説明しましょう。

みなさんの中には数学は答えさえ合っていればよいと考えている人はいませんか。これが間違いであることは東大を始めとする難関大学の数学の問題の解答用紙を見ればすぐにわかります。解答用紙として渡されるのは、「ただの白紙」です。受験生は、この白い紙の上に、自分はどのように問題に取り組んだか、という思考過程を理路整然と説明していく必要があるのです。つまり、難関大学の数学の採点者は最終的な答えだけではなく、結論に至る論理的な思考力と、それをきちんと伝えることができる表現力を見たいのです。

これは、入試問題の現場で採点をしている大学の先生方の声からも明らかです。毎年、東大を始めとする主要大学の入試問題の採点者が集まって行う会議で出される声明文にも同じ趣旨のことが書かれています。

成増塾数学科では、答案の書き方を一から指導していきます。自分で理解したことを採点者にわかるように理路整然と書いていく力は一朝一夕に得られるものではありません。

高校数学につながる計算力は中学時代に培うしかない。

また、中学数学では文字式、方程式、因数分解が登場します。これらは高校数学を学習する前提となる学力なので、中学生のうちに十分な計算力をつけておく必要があります。いくら問題解法に対する「ひらめき」があり、解答までの道筋を読めたとしても、それを最終的に解答まで導いていくのはやはり確固たる計算力です。そして、確固たる計算力は中学数学

を学ぶ過程で地道に習得するしかありません。

授業に出て「わかった」と思っても、いざ自分で解きなおすと実はよく分かっておらず同じ問題でも解けないことがあります。成増塾の授業では「わかった」から「解ける」レベルに生徒全員を導くために、小テストを頻繁に取り入れます。

中学数学の範囲は中1中2で終わらせます。中3では高校数学の数IAの学習をします。高校受験組には難関高校の入試問題の対策をします。

成増塾中学部の数学の進度は中高一貫校の進度に合わせ、中1、中2で中学数学の全範囲を終わらせます。ここまでは高校受験を考えている公立中に通う生徒も同じです。

中3時には中高一貫校の生徒は高校数学の範囲であるＩＡを学習し、高校受験組は難関高校合格に向けて高校入試の問題を解いていきます。

門脇講師の監修による『数学科チームラーニング・コース』がスタートしました!

成増塾は設立以来25年間、一貫してプロ講師による少人数クラスでの授業を行ってきましたが、今年度より、従来のプロ講師による講座に加えて、成増塾のプロ講師監修によるチームラーニング講座がスタートしました。（高田馬場校のみの実施。）

そのコンセプトはズバリ**「勉強を楽しむ!」**ということです。

毎年東大、国・公・私立大学医学部を始めとする難関大学に多数の合格者を輩出している門脇講師が発案したこの講座は、いわば**「成増塾のプロ一流講師の長年の指導経験」**と**「大学生チューターの生徒との近さと機動力」**を組み合わせた、いわば**「いいとこ取り」**の講座です。

この講座では受講するすべての生徒を**「大の数学好き」**にすることを狙いとしています。

今まで算数が好きで得意だった人は、ますます好きに、数学に苦手意識を持っていたひともこの講座をきっかけに**「数学を面白い」**と思うようになるはずです!

成増塾 高田馬場校での「チームラーニング」クラスの授業風景。まさにチームが一丸となって問題に取り組みます。

指導する大学生チューターと2名の受講生が活発なコミュニケーションを取りながら授業が進みます。

国語科の指導方針

国語はすべての科目の土台になる基礎科目。

国語力と他の教科の学力は密接不可分に連動しています。これは入試レベルが高ければ高いほどますます当てはまる事実です。

2021年から文科省は現在のセンター試験を廃止し共通テストを導入します。共通テストの主眼はズバリ、「思考力と表現力を見ること。」です。

共通テストでは、従来のような知識偏重型の試験形式ではなく、生徒の論理的思考力と、自分が理解したこと、考えたことを、説得力を持って表現できる力が問われます。

論理的思考力はすべての科目の土台になる能力です。数学はもちろん、理科、社会などでも、ある問題を考える際に、与えられた条件や資料をもとに筋道を丹念に追っていく論理的思考力は一番大切な能力です。国語力がなければ他教科の成績も上がらないことをまず英語を例にあげて考えてみましょう。

中学生のみなさんにはまだ遠い先の話に思えるかもしれませんが、東大の英語の問題の話をしましょう。

東大や医学部、難関大学の英語は高い国語力がなければ解けない。

東大の入試の英語問題を解くには、英語ができるだけではダメで高い国語力が必要とされます。例えば、東大の英語の問題では毎年必ず１問目で要約問題が出されます。要約問題は英語を日本語に訳せるだけでは点数がもらえません。与えられた英文から「この文章の筆者はいったい何が言いたいのか」ということを的確に捉えて、簡潔な日本語で表現する必要があります。つまり、要約問題を解くにあたっては英語力のほかに国語力が必要となるのです。

さらに、東大の英語の2問目では、文章の並び替え問題が出されます。英語の長文の全体構造を捉え、論理展開を予測しながらバラバラになった文章を正しい順番に並び替える力もまさに国語力そのものといえます。ちなみに、慶応の医学部の問題にも東大と同様、要約問題、文章並び替え問題がしばしば出題されます。現在のセンター試験でも、記述式ではありませんが、要約、文章並び替え問題が毎年のように出題されます。

東大や慶応の医学部以外の難関大学でも英語で高い国語力を要求する大学はたくさんあります。

例えば、国立医学部の中で東大理Ⅲに次ぐ最難関レベルといわれる東京医科歯科大学【略称、医科歯科】の英語の問題がその一例です。医科歯科の英語は超長文問題が一題だけ出されます。そして、必ず出される設問が「この文章の筆者が○○についてどのように考えているのかを500字-600字の日本語で書け。」といった非常に長い論述問題なのです。

「500-600字」というとちょっとした小論文ともいえる長さなので、生半可な理解、表現力では全く太刀打ちすることはできません。この医科歯科の問題からも英語の成績を上げるためには英語が読めるだけではダメで、理解したことをかなりの長文で正確に表現する国語力が必要なことがお分かりいただけることと思います。

さらに、東大、一橋、早稲田といった難関大学では、世界史、日本史、などの社会科目も400-600字程度の論述問題が出され、大きな配点がなされています。このような論述問題を解くにも国語力は不可欠であることはお分かりいただけると思います。

授業では論理的思考力と表現力を徹底して身に着けてもらう。

成増塾中学部の国語の授業では、みなさんが絶対に身に着けておくべき論理的思考力と表現力を鍛えることを主眼とした授業を行います。

授業では入試問題を一緒に解いていきますが、ただ正解、不正解を見つけるのではなく「筆者はどのような論理展開をしているのか。」「なぜこの答えでなければいけないのか。」ということを生徒と双方向のやり取りをすることで徹底的に考えていきます。

ても自分で筋道を立てて考えられるようになり、国語だけでなく他教科にも大きなプラスの影響を与えることになります。

たくさん本を読むことが最高の入試対策。

なお、授業以外でみなさんにお願いしたいのは、「とにかくたくさん本を読んでください。」ということです。

私は長年の指導で「本をたくさん読む生徒は特別な勉強をしなくても国語の成績がよい。」ということを知っています。たくさん本を読んでいる生徒、中でも入試問題に出題されるような作家の本に日常的に触れている生徒は何の努力もせずに国語で高得点を取ることができることが多いのです。とりわけ小説の問題ではこれが当てはまります。入試問題に出題される作家はネットで検索すればすぐにわかるので自分の好みに合いそうな作家の中から始めてみてはいかがでしょうか。

授業の中で一人一人の答案にコメントします。

さらに、記述・論述問題ではみなさん一人ひとりの解答を授業の場で示し、不足している点を追加し、間違っている点を正していきます。授業に参加する生徒はその場で自分の書いた解答がどう評価されるかをすぐに知ることができるのです。

また、難関校をめざす他の生徒の答案を見ることも大変参考になります。当然のことですが、「自分の意見を書け。」といったタイプの問題に対して、答案は生徒ごとに異なるので、自分以外の生徒の異なる意見を授業で知ることで問題に対する理解を深めることができるのです。

理科・社会科の指導指針

【高校入試に必要な中3生対象】

隔週1回のテスト形式の授業で理科・社会の重要事項を最も効率よく身に着ける。

理科・社会科では入試頻出のテーマを、講義形式ではなく、それぞれ隔週1回のテスト形式で勉強していきます。

講義形式ではなく、テスト形式にするのは、それが、必要な知識を身に着けるのに一番効率の良い方法だからです。

テスト形式の授業とは、テストで出題される範囲を塾のテキスト教材で予習し、週1回、その予習した範囲の問題を解き、そのあとに解説を受けるというスタイルの授業のことです。テストの答案は翌週までに採点し返されます。

難関高校の入試に臨む中学3年生にはやるべきことがたくさんあります。英語、数学、国語の問題を解くのに手いっぱいで、なかなか理科、社会の授業を週に3回も4回も受ける時間はないはずです。成増塾のテスト形式の授業で最も能率よく知識を身に着けてください。

勉強の仕方、ノートの作り方も徹底的に指導。

また、成増塾の理科、社会の授業では、どうやって勉強したらよいかも徹底的に指導します。入試直前に短時間で見渡せる効果的なサブノートの作り方、志望校に余裕をもって合格するためのスケジュールの立て方、問題集の選び方、等を具体的に教えます。

ここでみなさんが習得した勉強法は今後の人生においても必ず大いに役に立つはずです。

講師紹介

塾長がズバリ、講師の特色をホンネで語ります!

成増塾の講師はそれぞれ独自の指導スタイルを持っており、
成増塾で受講を考えている生徒は、実際に体験授業を受けた上で講座を決めることになります。
ここで、どの講師がどんな授業をするかについて、ズバリ、本音で紹介させていただきたいと思います。

英語科

高島 穣

中学1年で…
中学英語の骨組みをすべて作る。

中学2年で…
高校英語の文法事項を学習する。

そして、中学3年で…
全員が英検2級に合格!
準1級や東大・早慶などの
大学入試問題にも取り組む。

【クラス定員8名程度】

英語は中1のうちに中学3年までの基礎固めを終わらせてしまいます。

「そんなに早く中学英語を終わらせることが可能なのですか」とか「一通り終わらせても全然身につかないのではないですか」とか「宿題が山のように出るのではないでしょうか」という質問が寄せられることがあります。

もっともな質問かと思いますが、今までの私の指導経験からはっきりと次のように申し上げることができます。

授業の復習を次の週まで
1日15分してくれれば、
余裕をもって中1のあいだに
中学英語の基本を完全に理解し
マスターすることができます。

私は、30年以上中学生の英語を指導してきましたが、私のやり方で脱落した生徒はほとんどいません。脱落する生徒のほとんどは、復習を全くやらなかった生徒です。

復習を全くやらない生徒でも授業に欠かさず出ていればかなりモノになります。

「中1のうちに中学英語の基本を完全にマスターすることができる」とは、ただ骨組みを理解するということではありません。中学1年の1月(勉強を始めて11か月後)にはクラスの全員の生徒が中学英語の基本をマスターし難関高校受験レベルの英作文をスラスラ書くことができるようになるのです。

なぜ、そんなことが可能なのか。

簡単に説明すると、「中1のうちは、すべて英作文の形式で、実際に生徒に英文を書かせながら授業を進め、さらに、一度習ったことを、忘れないうちに何度も復習しながら新しい単元をマスターしていく」という方法を実践しているからです。

生徒には「とにかく徹底的に書かせる」ことで英語をマスターしてもらいます。
穴埋めや記号式の問題集だけで勉強を進めると、あやふやな理解で終わってしまったり、基本単語のスペルを覚えられないなど、基礎固めに支障をきたすことがあるのですが、「完全な英文を書く」英作文の形式で練習を徹底することで、それらの不安を一掃することができるのです。

授業はオリジナルプリントを中心に、市販の塾用問題集で肉付けしながら進めていきます。

中1の英語の授業は大まかにいうと次のように進められます。

●1学期のうちに中1英語の内容をマスターし、使いこなせるようにする。

●中1の夏休みから9月くらいの時期に中2英語の内容をマスターし、使いこなせるようにする。

●中1の10月から翌年の1月までの3か月で中3英語の内容をマスターし使いこなせるようにする。

つまり、中1の1月にはクラス全員が中学英語の重要部分をマスターし使いこなせるようになることを目標としているし、実際にそれをほぼ完全に実現しているのです。

さらに中2以降のスケジュールを大まかにお話ししましょう。

●中2では、中1の時に一通り終わらせた中学英語の復習を行いつつ、高校英語の内容も学習する。また英文読解にも力を入れ、英検準2級の文章を正確に読めるようにする。

●中3では、英検2級の英文を完全に正確に読めるようにするとともに、夏休み以降は共通テストや東大の問題にも取り組む。高校受験組の生徒には難関高校の入試問題も余裕をもって解けるようにトレーニングしていく。

「英検2級に合格しました。」でも、油断は禁物。

ここまで読んでいただいた方の中に「私は、子供の時から英会話を習っていたから英検3級にもう合格している」とか、早い人になると小学生のうちに英検2級に合格しているという人もいるかもしれません。

そのような方に言わなければならないのは「英検2級に合格したからといって英検2級の英文を完全に理解し、正確に読めているとは限らない」ということです。

なぜなら、英検の試験は非常に素直な問題で、すべて記号式で行われますし、6割強で合格することができるからです。つまり、英文の内容がよくわかっていなくても単語などから適当に推測してマークすれば英検に合格してしまうことはあるのです。

実際、英検準2級に合格した人に準2級の英文を和訳してもらうと全く理解していないことや不正確にしか理解できていないことがよくあります。また、英検2級に合格した人が、文法的に不正確な英文しか書けないといった例を私はしばしば見てきました。

たとえ英検2級に合格しても、それだけで開成や灘などの難関高校の入試を突破することはできませんし、難関大学の受験をスタートさせる学力としても不十分なのです。

難関大学の入試を突破し、将来大学教育を受けた教養人として恥ずかしくない英語を使いこなせるには、やはり文法的な基礎をしっかり身に着けることが不可欠なのです。

リスニングやスピーキングの対策については体験授業で説明いたします。

高島講師は常に現在担当する生徒の学力を正確に把握したうえで授業を展開するので一人ひとりの生徒は、最も的確なアドバイスを受けることができるのです。

高島講師と教え子たちの集い。高島講師の授業を受けた生徒は志望大学に合格した後も成増塾をしばしば訪れてくれます。生徒たちとの交友関係は生涯続くものになります。

英語科

竹内啓介

英語の楽しさに目覚めさせてくれる授業!

【クラス定員8名程度】

竹内講師はイギリス、アメリカでの生活も長く経験し、ネイティヴ感覚を生かした授業で生徒の読む、書く、話す、聞く、力を総合的に伸ばしてくれます。

塾長から見た竹内講師。

竹内講師は有名塾での指導経験も長く、エネルギッシュで、本当に楽しくわかりやすい授業をしてくれます。授業では生徒とのコミュニケーションをとりながら生徒の英語力を総合的に伸ばしてくれます。イギリス、アメリカでの生活も長かったのでいろいろなお話も聞かせてくれます。生徒は知らないうちに英語学習の楽しさに引き込まれ、しっかりとした英語の基礎力を身に着けることができるはずです。

竹内講師が語る。

【英語、ヤバいかな…と思い始めた君へ】

はじめまして！講師の竹内John啓介です！気軽に「ジョンさん」と呼んでくださいね！ところで成績の上げ方って知ってますか？学校の授業はつまらない、買ったけど手をつけてない参考書がたくさんある、塾に通っても予習・復習なんてしない、通信添削の教材はたまる一方…それがかつての僕でした。そんな無駄な時間とお金はもったいない！ 本来、学ぶことは楽しいことなのです。楽しいから勉強する、勉強するから成績が上がる、成績が上がるから楽しい。この快感はクセになります。あなたの成績、必ずあげてみせましょう！

【高校にあがるその前に】

大学受験では、他の科目と比べて英語の配点が大きくなります。それゆえ、他に得意科目があっても、英語の点数が悪いと受かりません。さらに、皆さんが大学受験に挑む頃には、従来の「読む」ことを中心とした問題に加え、「聞く」「書く」「話す」の4技能を総合的に問われる問題になると予想されています。入試問題の移行期間に受験をむかえる皆さんは、場合によっては、4技能問題の初受験者として、過去問がまだない入試を受けることになります。この入試を乗り越えるためには、小手先のテクニックや付け焼き刃の勉強では太刀打ちできません。早い時期からレベルの高い対策をし、本物の語学力をつけてきた人が受かるシステムへと変わろうとしているのです。

高校生になるまでに英語力の基礎を身につけ、高1から大学受験を意識した文法を、高2・高3では長文読解やリスニング、英作文の対策に専念できるようにしましょう。

【中学生の目標は英検2級合格】

とは言うものの、中高一貫校に通っていると、なにを目標に勉強していいのかわからなくなりがちです。特に中学生のうちは、中間試験・期末試験の直前だけ勉強してその場をやりすごすようになってしまいます。せっかく中高一貫校に入って自由な先取り学習ができる環境にあるのだから、それを活かして思う存分実力を伸ばしましょう。

そこで、中学2年生のうちに英検準2級、中学3年生のうちに英検2級という明確な目標を持つことで勉強のモチベーションを保ちましょう。それぞれ合格に必要な英語力として、英検準2級は高校中級程度、英検2級は高校卒業程度の英語力が必要とされています。また、モチベーションのためだけでなく、外部の試験である英検に合格することで大きな自信を得られます。さらに、実力十分と判断した生徒には、個別に準1級にチャレンジすることも勧めています。

英検ではリスニングと面接も課されます。そのため、英語で文章を読めることは当然のこととして、「聞く」「話す」など英語の運用能力をトータルで問われます。つ

まり、英検とは大学受験の新傾向への対策や、ひいては将来実際に使うかもしれない実践的な英語力を培うためにとても有意義なテストなのです。

【学校生活との両立】

中高一貫校に進学したということは、高校受験がないということです。これは、上でも書いたように、差し迫った目標なく勉強しなければならないという面もありますが、ポジティブに考えれば、伸び伸びと中学生活をおくれるということでもあります。なので、勉強だけでなく、部活動や学校行事にも大いに取り組んでください。勉強も部活も日々の生活も全部ひっくるめて、中学時代という一度きりの青春を全力で謳歌してください。

そう願うからこそ、僕は中学生の授業では極端に多い宿題は課しません。他塾の中には中1の頃から毎週山のような宿題を課し、生徒を追い立てるスタイルの塾もあります。こういった、ついてこれる者だけついてくればよい、という授業スタイルは僕の授業スタイルとは真逆のものです。たしかに膨大な量の宿題を出せば、保護者にはきちんと指導しているアピールになりますし、どうにかその膨大な宿題をこなしきれる生徒の成績は(講師の実力に関係なく)伸びるでしょう。そして、成績が伸び悩んでいる生徒に対しては「宿題をやりきれない君が悪い」と無責任な言い訳ができる、という仕組みです。

しかし、果たしてこんなやり方で英語を好きになれるのか、せっかく中学受験して入った学校の生活を満喫できるのか、僕には甚だ疑問です。いかに楽しく英語力を伸ばせるか、いかに語学を好きになってもらい、自ら積極的に学びたいと思わせるか、それが中学生に対する僕の役目だと思っています。

【授業内容】

従来型の長文読解だろうと、新傾向の4技能テストだろうと、英語の基礎が重要であることは変わりません。高校生(特に高校2年生)以降、難しい問題を解きこなすための土台となる「単語」と「文法」を中学から高校前半の間に身につけることが大切です。

授業では、中1のうちに中3の終わりまでに習う文法事項を全て身につけます。先取り学習をすることで「学校の授業が塾の復習になる」という好循環を作り上げます。中2以降は、主に「長文を読む力」を養っていきます。中1で習った文法事項が長文の中でどのように使われるのかを確認しながら、和訳・読解の訓練をくり返していきます。その過程で、勉強の目標として上記の英検を取り入れています。中3の最後には難関高校の受験問題にチャレンジすることで、高校受験組に負けない「解ききる力」を修得してもらいます。

本格的な受験学年になる前だからこそ、楽しみながら英語を学んでください。楽しみながら本気で取り組んだもの、それがいずれ必ず君の財産になりますよ。

【一言メッセージ】

英語はたんなる「科目」ではなく、世界中で使われている「言葉」です。クラスで友達と話すのが楽しいように、本来「言葉」は楽しいものなのです。僕はアメリカとイギリスに住んでたこともあって、「言葉」としての英語が大好きだし、君たちにもそのおもしろさを伝えたいと思って教壇に立っています。英語ができると君の視野が広がるし、一生役に立つ。世界中に友達ができる。日本語の美しさに気付けるようにもなる。いいことだらけだね！

受験英語で終わらない真の英語力を身につけて世界に羽ばたけ！

受講者の声

K・Uさん

鴎友学園女子中学校

★初めての授業の際にはちょっとした面接があり、苦手な教科や学校生活などについて話しました。授業では、英文を読んでその文章を和訳していく中で新しい単語や文法、和訳のしかたなどを学びます。一文ごと細かく丁寧に説明してくださるのでとても分かりやすく、理解しにくい点や疑問に思ったことは気軽に質問することができます。
文法プリントを使う際には、プリントに書かれている問題を解き、生徒が間違えた問題を重点的に解説してくださいます。また、中間・期末試験前は対策会を設け、学校の英語の授業が疎かにならないようにフォローしてくださいます。
ジョン先生はとても親しみやすく、ユーモアある授業はとても楽しく、ためになっています。

英語科

真島信雄

英文構造を解明することが英語を得意にする第一歩!

【クラス定員８名程度】

真島講師の授業は明快で疑問点を残しません。英文の論理構造を丁寧に解きほぐしていく緻密な授業は多くの生徒から絶大な支持を得てきました。

塾長から見た真島講師。

真島講師は都内有名塾で長年教鞭をとってきましたが2016年より成増塾で指導を開始しました。真島講師の授業は非常に論理的であいまいな点を残しません。英文の論理構造の解明を自力でできるようになった生徒は正確に速く、自分で英文を読み進めていくことができるようになります。

真島講師が語る。

人は呼吸する。だが、その無(・)意識の呼吸の「メカニズム」を、意識して理解している人は少ない。英語学習も同じです。

生まれながらの活動(ネイティブ)と異なり、幼児期を過ぎてからの第二言語としての英語学習では、意識的に、「頭の動きを自覚し体系的に」学習することが不可欠です。

英語は、社会の現象に対して、言語を用い、理解し、運用していく学問です。そのため英文を読む際、頭の中でイメージし、英語で言語化する訓練が必要になってきます。

現状、英語の授業において、文法公式を丸暗記させ問題を解かせる授業が多く、そのような授業ではマークシート形式の入試には対応できても、英文構造の読み解きを必要とする難関私大、国公立大、医歯系大の入試問題には対応できません。

単語さえわかれば、英文の読解はできるというのは詭弁です。「英文の構造が読み解けなければ、英文読解は出来ない」。これが私の得た帰結であり、合格者のみが実感した現実です。

英文の構造を把握する勉強法なら、英語の実力は飛躍的にUPします。

従来、多くの学生が陥りがちであった間違った英文読解の捉え方を図式化すると、以下です。

英文→単語の意味の積み重ね→文の意味がとれない

これは、単語力にモノを言わせ、力技で、英文の意味を作り上げる方法で、「何となくこんな意味だろう」という訳になります。それで何とか正解できた気になっている人は残念ながら、合格は遠のいてしまいます。

もう学生は、こうした"暗記型学習"に傾斜した勉強法とは決別し、"構造型学習"に切り替えてもらいたい。構造型学習とは、一見、難解な英文を見ても、その構造を分析し、「この英文は、こういった構造ゆえ、この解釈しか考えられない」と、根拠をもって答える学習法です。

以下が、この考え方の図式となります。

英文→文の構造理解→内容理解

この読み方がしっかり身につけば、急に視野が開け、英文の本質が理解できるようになり、英文が読めます。またこれまで嫌々やっていた文法の本当の重要性も、どんどんわかってきます。断片的な知識が、頭の中で結合し、「英文がわかるとはこういうことか」と実感します。

この段階に入るとテストの点も飛躍的に上がるし、難関校合格も手の中となります。

本授業ではただ公式を丸暗記するのではなく、１つ１つの英文の構造をしっかりと理解・咀嚼し、自分で導けるようになることで、英文読解に興味を持ち、その構造を自分で応用して使う文法力を養っていきます。

暗記を増やすのでなく、知識に論理を与える事が、英語力向上のカギです。最後まで考え抜いていきましょう。そのため身近にある社会の現象を頭の中でイメージし、その現象を英語で言語化する訓練が必要になってきます。

今村 尚

医学部に強い、贅沢な超少人数クラス。

【クラス定員6名程度】

今村講師は医学部受験指導のキャリアが長い「医学部合格請負人」です。誠実で温かみのある人柄、様々な工夫が施された楽しい授業で受験生から厚い信頼を得ています。今村講師は、生徒一人ひとりの特性にあった指導をすることを揺るがない方針としています。

塾長から見た今村講師。

今村講師は、医学部英語に精通する医学部英語のエキスパートです。都内の有名医学部受験塾や医学部専門の個別指導塾長年の指導経験があります。単語、熟語、構文、文法、すべての分野をシステマチックに、楽々と暗記させてくれます。生徒がどこでつまずいているかをしっかりと確認した上で、その生徒に一番あった指導方法を考えてくれます。今村講師は人格もすばらしく、卒業した生徒からも慕われています。

今村講師が語る。

1、中1の英語授業について

中学校の英語学習は、あらゆる面で、高校に繋がる土台を作り上げる重要な部分です。特に入学後、数ヵ月は、英語のspellと発音の関係の体系を学び、文法の基本を習得し、英語自体に慣れる必要があります。同時に、この時期に、学習習慣をしっかり身に付け、新出単語や基本文を精力的に身に書けるようにすることが、後々の英語力を左右すると言っても過言ではありません。

そこで、中学一年生の授業では、まずは、読んで、書けることを重視して、毎回の授業で、単語や基本文及び教科書の文などの読み書きの習得を、しっかりできるまで徹底練習しています。

文法の進度は、学校の教科書よりは早く、中2の1学期の内容までカバーしています。進度が早い教科書(ニュー・トレジャー、プログレスなど)にも遅れを取らないよう、十分対策をしています。

逆に、学校の英語を不得手にしてしまった場合も、基本に立ち返り、単語練習やドリルの反復を大事に、苦手意識を克服できるように個別対応しています。

2、中2、中3の英語授業について

英語学習、特に、単語と音の仕組みにも、文法にも慣れてきた2年生では、中学校で習う文法を体系的に扱い、カリキュラムとしては、中2で、中3範囲の大方を終え、中3の2学期からは、高校の範囲に入っています。

授業中に、その日提示した単語を時間を決めて覚えるテストや、分野を限定しないアトランダムな復習の文法のテスト、実力テスト的な長文読解、英検の問題なども取り上げ、柔軟に英語力を伸ばせるように進めています。

また、クラスには中高一貫生が多く、高校受験生が少ないですが、受験する生徒とは志望校の過去問に取り組んだり、単語や文法の総復習をしたりもしています。

3、授業時間について

部活や学校行事の関係で、授業開始の時間に全員が揃わぬことも多く、みんなが揃う時間に、重要な文法の説明を行うなど時間の工夫はしておりますが、習い事があり早く帰りたい、部活で毎週遅れるような場合も、個人的に少し早く始めたり、延長して授業のフォローをしたりもしています。

ご遠慮なくご相談ください。また、春期、夏期、冬期の講習については、普段の総復習に充てています。

日程については、在籍生徒の都合を尋ねて、組んでいます。

英語科

安藤勝美

基礎力を万全にするから英語を得意科目にすることができる!

【クラス定員8名程度】

安藤講師は大手予備校で長年教鞭をとってきました。長年の指導経験をもとに作られたオリジナルプリントで生徒の実力は短期間で伸びていきます。

塾長から見た安藤講師。

安藤講師は、大手予備校での教授経験も長く、教え方が非常にうまい先生として知られています。また、誠実で温厚な人柄で一人一人の生徒を丁寧に指導することで生徒、保護者から絶大な信頼を寄せられています。

安藤講師が語る。

●経歴と教育理念●

ご縁あって平成元年より教壇に立たせて頂き、教えた生徒数は29,000人を優に越えます。元生徒の中には医師や弁護士だけでなく、東大や医大で教えていたり、日本を代表して国連機関にて海外で活躍している方や、女優・天気予報士もいます。

少人数制の塾だけでなく、最大手予備校においても20年ほどの講師経験があり、英語が不得意な生徒を難関校へと数多く導いてきました。

32年に及ぶ講師経験から断言できるのは「学ぶべきことを習得して活用すれば、成績は必ずアップする！！」ということです。その学ぶべきことを責任感を持って教え、志望校合格へと導きます。

入試に直結することだけでなく、今後の人生に役立つような情報や知識も伝えていきたいと考えています。

「大きな成功には、小さな成功体験がその背景にある。」

受験の成功が小さいとは言いませんが、それをきっかけに将来の大成功を築いて欲しいです。

●授業内容●

1コマ2時間の中で、英文法・語彙語法・英語構文・英作文・英文読解を、基礎からハイレベルまで丁寧にバランス良く教えていきます。

中間試験や期末試験の対策は勿論、大学入試まで見据えた授業を展開し、一生使える本物の英語力が身につくように指導します。

毎回の授業で実力がアップするのを実感してください。その先に第一志望校合格が待っています！！

●テキスト●

原則として文部科学省の学習指導要領に対応した教材を使いますが、受講生からのニーズに応じて、教材を用意します。

時折、東大や京大などの最難関大の入試問題演習も取り入れ、学力の向上を実感して欲しいと思います。

最高水準の教材で、確実に実力をつけていきましょう！！

●生徒指導●

授業内容や進路などの質問や相談はいつでも受けます。特に試験直前にはニーズに応じて英作文の添削も一人一人丁寧に行い、受験が終わるまできちんと指導します。

●すぐ始めよう●

成増塾の体験授業は予約制です。授業に興味を持ちましたら、お電話で予約してください。

途中入学される方には個別面談にて相談にのり、学習指導します。安心してください。

では、教室でお会いしましょう！！

加藤剛史

1年で全国マーク模試の点数が50点から183点(133点アップ⤴偏差値30アップ⤴)に上がった授業!偏差値40からでも国公立・早慶上智・医学部に合格する!

【クラス定員8名程度】

加藤講師は、ていねいで分かりやすい板書で授業を展開していきます。

塾長から見た加藤講師。

加藤講師は週に 2回運動などで気分転換をしていますが、四六時中熱心に教材や過去問を研究しています。空き時間や空いてる日程に通常授業とは別の補習授業を行うなど非常に面倒見が良いです。ユーモアがありメリハリをつけた楽しい授業で、英語に苦手意識がある人でも得意にし、英語好きにしてしまいます。

加藤講師が語る。

●私のプロフィール●

早稲田大学政治経済学部・経済学科卒業。大学3年の時、アメリカカリフォルニア州立大学に1年間学部留学後、塾・予備校指導歴は16年に及びます。最初の9年間は英語だけでなく国語講師としても教壇に立ち、現在はその国語指導を基にして、パラグラフ毎の要点を鋭く見抜き、文章全体での筆者の主張を的確に掴む論理的な英語長文読解法を確立しました。全国最大手家庭教師センターでプロ家庭教師をする一方、都内の2つの有名医学部予備校でも指導し、医学部合格者を多数輩出しています。

現在まで、基礎クラスから最上位クラスまで学年も幅広く担当し、**基礎クラス(平均偏差値43)からも早稲田大学(教育)合格者を出した経験があります。ある受講生(偏差値58の公立高校に在籍)の全国マーク模試での偏差値が40.5(5月)から62.5(10月)に上がったこともあります。下高井戸のある中3受講生は4月半ばから受講開始2ヶ月で学年順位が180人中94位から36位に上がり、それから4ヶ月後には17位に上がりました(77位アップ⤴)。また、下高井戸で受講開始2ヶ月後に全国マーク模試の点数が46点上がった(偏差値11.8アップ⤴)高3生もいます。**ある医学部予備校では「今までで1番わかりやすい!」と言う多浪生も現れ、個別指導で指名する生徒が一年中続出しております。ある高2生は高3の8月までに、1年で全国マーク模試の点数が50点から183点(133点アップ⤴偏差値30アップ⤴)に上がりました。

[授業スタイル]

私の授業では単語・熟語テスト、復習テスト、文法・語法を重視することはもちろん、文構造を掴むための素早く丁寧な板書を徹底しています。生徒さんに発問しながら文構造を一緒に分析して和訳を考え、その後に構造を書き込んだプリントを配布します(生徒さんは板書を無駄に写す必要はありません)。「書く」という作業は頭を働かせる上で重要ですが、解説を聞きながら板書を書き写してしまうと構造を把握する過程が頭に残らない可能性が高いので、そうならないように常に配慮します。

授業中の発問内容は普通に授業を聞いていれば答えられるものばかりなので安心して下さい。英作文も状況を見ながら文法・語法、読解の間にバランス良く組み込んでいき、答案の添削を徹底します。

単語については接頭辞・接尾辞を利用した覚え方を、熟語についてもなぜそういう意味になるのかをアドバイスしていきます。リスニングについても随時助言します。質問があれば気楽に尋ねて下さい。授業中に質問しづらい生徒さんにも授業前後を使って確実に対応します。

また、パラグラフ毎の筆者の主張を捉える読解法は当然ながら、**音読を非常に重視します。テキストの文章に合わせたネイティヴの音源を自宅や外でも聞けるように用意して音読課題を出して、スラスラ音読して訳せるかを翌週にチェックします。まず一文一文をじっくり確実に精読出来る力をつけて、扱う英文は徐々に徐々に長くしていきます。文構造と意味を意識しながら毎日10分以上音読することで発音・アクセント問題に余裕で対応出来るようになり、単語・熟語も文脈の中で記憶に定着し、英語を左から右に無意識的に直読直解する力が必ずついてきますので楽しみにしていて下さい!!**

学校の教科書も、覚えてしまう位に普段から音読しておけば、定期試験前に慌てて英語をやる必要がなく他の科目に時間を使うことも出来ますよ!

英語科

中山洵一

英語のスペシャリストが
楽しくわかりやすく教える。

【クラス定員8名程度】

塾長から見た中山講師。

中山講師は東大で言語文化を専攻した語学のスペシャリストですが、生徒一人ひとりの心情をつかみ取り、一人一人に寄り添って丁寧に指導を進めていく優しい先生です。

中山講師が語る。

【進度】

中2の8月頃までに公立中学校で習う内容を修了します（一部の分野は高校初級まで踏み込みます）。そこから中3の春ごろまで、重要単元の復習・入試長文を読めるようになるための英文和訳の練習・入試の出題形式ごとに分けた問題演習の3つを並行して進めていきます。中3の1年間は高校入試問題の演習と高校初級文法を進めていきます。

学校の授業ではものたりない、公立中の生徒にお勧めです。もちろん高校入試のない中高一貫校の生徒も歓迎します。

高校入試問題は大学受験の基礎固めにも最適な教材です。高校入試がある、ないにかかわらず、ぜひ入試演習に参加してください。

1年	2年		3年
中学英語の全範囲 ＋ 一部の高校分野		復習	入試演習 ＋ 高校初級文法

授業の構成 …
①単語テスト
②復習の和文英訳問題
③新単元の解説&演習

↓

①単語テスト
②復習の和文英訳問題
③新単元の解説&演習
④出題形式別の問題演習

↓

①単語テスト
②入試問題1年分or高校初級文法
③（復習の和文英訳）

授業の構成 …
①単語帳の暗記（30個）
②復習課題（簡単なドリル）
③復習ノート作り

↓

①単語帳
②演習問題の予習
③演習問題の解きなおし（復習ノート）

↓

①単語帳
②復習課題（簡単なドリル）
③入試問題の解きなおし（復習ノート）

【想定レベル】

3年間でどんな入試問題にも対応できる力を養います。最終ゴールは偏差値70前後（Vもぎを参照）の高校入試問題をクリアすることです。比較的速く、難しい授業になります。

【講師の紹介】

1992年台北生まれ。15歳までアジア各国を転々と過ごす。母国語は日本語。大学卒業後、しばらく脚本家を目指しつつフリーターに。やがて講師業に本腰を入れるようになる。2019年から成増塾にて出講。英検1級、TOEIC980点を取得。

数学科

大北鑑哉

数学の楽しさを教えてくれる とっておきの講座。

【クラス定員10名程度】

塾長から見た大北講師。

大北講師は生徒がつまずいているところをいち早く見抜き、その部分にまで立ち戻って教えることができる素晴らしい講師です。一人ひとりの疑問点に納得するまできめ細かな対応をしてくれます。

大北講師が語る。

【自己紹介】

東大や医学部を目指す生徒を中心に様々な予備校で数学を教えてきました。

レベルの高い生徒の指導ができるのはもちろんですが、私立高校で非常勤講師をしていたこともあり、そのときは九九さえ怪しかったり、分数の足し算が出来ない高校生も教えたことがあります。その経験から数学が苦手な生徒の指導も得意です。

【数学について】

数学に必要なことはまず「定型解法」を定着させることです。

受験数学は公式や定理だけを覚えていればいいかと言えばそうではなく、それ以上に覚えなくてはいけない定石のようなものがたくさんあります。私はこれを「定型解法」と呼んでいます。

数学の苦手な生徒はこれの定着が出来ていない生徒がほとんどです。もちろん丸暗記すれば良いというものではありません。

定着させる過程でしっかりとした理解が必要です。チャートのような網羅系参考書を繰り返せばそれが身につくという誤解が世間に蔓延していますが、それとは少し違います。

大手予備校の模試で偏差値60に届かない生徒は単純にこの部分が出来ていないだけだと思ってください。

次に東大や医学部のような難関大学で合格点を取るためにはそれに加えて「数学的思考力」が必要です。

それはしばしばセンスのようなものだと勘違いされていますが、そうではありません。私はこれを「普遍性」と「必然性」で説明します。

見たことのない問題に出会ったときにどう立ち向かえば良いか、普遍的な取り組み方があるのです。そして、どの解法を用いるか、そこには「必然性」があるのです。それを意識的に身に着けさせます。

私の授業を受ければしっかりとした「数学的思考力」が身に着きます。「定型解法」の定着と完全に分離したものではなく、「定型解法」の定着の段階でも「数学的思考力」が身に着くような授業を行います。

【授業スタイル】

生徒には一人ひとり個性があります。

勉強法にも向き不向きがあります。

そこで、生徒に密着し生徒一人ひとりの勉強計画を立て、最適な教材を考えます。

市販の参考書や自作のプリントを用います。

必要であれば生徒一人のためにプリントを作成します。やる気がある生徒を見捨てないのは当たり前ですが、やる気のない生徒も見捨てません。

私自身、受験生時代はかなり不真面目な生徒でしたし、多くの不真面目な生徒を見てきました。

そういう生徒は頑張りたいと思っていても努力が続かなかったりモチベーションが上がらなかったりと悩んでいることを知っています。

どうすればモチベーションが上がるか、一緒に必死で考え、勉強のシステムを構築します。

それゆえ、今まで上手く頑張れなかった、成績が伸びなかった生徒も積極的に参加してほしいと思います。

数学科

高橋直人（中学部 数学科主任）

数学科実力派講師、丁寧な指導でぐんぐん力が伸びる。

【クラス定員12名程度】

誠実な人柄、わかりやすい授業で多くの生徒に支持される高橋講師。開成、東大数学科卒という超エリートでありながら生徒の面倒見の良さはピカイチです。本当に頼りになる先生です。

塾長から見た高橋講師。

成増塾の数学科、実力派講師の一人です。ご自身、開成、東大数学科出身の数学のエキスパートでありながら一人ひとりノートの書き方からチェックするなど非常に丁寧な指導をしてくれます。医学部専門の個別指導塾での経験も長く、本当に頼りにできる講師です。

高橋講師が語る。

少人数形式の授業で、生徒一人一人に対して徹底的に面倒を見ていきます。

私の授業は、成増塾最大の特徴である、**少人数形式のメリットを最大限に生かした授業**を行っております。塾や予備校の場合、30人以上の広い教室で授業を行うことが多いのですが、その場合、講師が一方的に話すだけで、個々の生徒の様子が把握しにくくなります。ある生徒は計算が得意だが図形問題は弱い、別の生徒は計算が早いがミスも多い、など生徒によって得意不得意はまちまちです。それを画一的な授業で行ったとしても、大きな効果は得られません。

私は医学部指導塾や少人数形式の塾で成果を上げてきた経験が豊富で、ノウハウも数多く持っています。演習中は生徒の様子をすべて見て回り、**弱点を個別に指摘しながら、最善のアドバイスをしていきます。**生徒の学力に応じて、演習問題の内容を何パターンか用意することもあります。

一方で全体に情報を共有化させたいときは、ホワイトボードで解説します。数学では思考力を養うことが重要なので、生徒に考えさせるために発問をどんどん行ない、生徒同士で議論させたりします。ときには生徒に前に出てきてホワイトボードで説明させることもあります。生徒参加型の授業となるので、積極的に発言して、楽しみながら授業を受けて頂きたいと思います。

国公立大学や医学部を中心とした難関大学を目指す生徒を徹底的にサポートしていきます！

成増塾は、東大や東工大・一橋大、国公立大医学部などの一流大学に大きな実績をもった塾です。私自身、成増塾で受験生を指導して、上記の難関大学に合格する実績を出してきました。以下はその一例です。

《 2017年現役生入試結果 》

A君　東大理I、慶応大理工、早大建築　合格
B君　東大文II　合格
C君　東工大（5類）、早大基幹理工　合格
D君　東工大（1類）合格
E君　一橋大経済、早大商　合格
F君　徳島大（医）、日本医科大　合格

他、合格者多数

国公立大学や一部の難関私立大では、記述問題がメインとなっており、白紙の状態から答案をきちんとまとめられる能力が必要となります。答案の作り方については、各生徒の特長（長所・短所）を見ながら、1人1人に合わせて指導しております。また、疑問があれば授業前あるいは授業後に、時間の許す限り対応しますので、どんどん質問して頂ければよいかと思います。

近年は医学部を目指す受験生が多いですが、私は長年、医学部専門塾で受験指導を行い、高い実績を上げてきました。**医学部特有の入学システムも熟知しておりますので、医学部を目指す受験生の方もぜひ成増塾に来ていただければと思います。**

難関大学に合格するために必要なこと。

数学は、難関大学入試の中で大きなウエイトを占めています。数学の成績向上に必要なものは、「知識」・「計算力」・「数学的思考力」です。このうち知識と計算力は練習量を重ねることで向上していきますが、数学的思考力については、なかなか向上せずに伸び悩んでいる生徒も多いと思います。**とくに東大・京大や国公立医学部のような超難関大学では、教科書や参考書にあるような典型問題を解くだけでは全く太刀打ち出来ません。**未知の難問に遭遇したときの対応の仕方が問題になるわけです。

私の授業では、そのような問題に遭遇したとき、どのように考えたらよいかを１つ１つ有機的に分解し、**誰もが実践できる形で解説します。**高度な問題ではひらめきも要求されまが、問題文を正確に読み取り、論理的な思考力を身につければ、必然的に正しい発想が得られるわけです。

大学に合格するために必要なことは、**正しい答案をいかに大学の先生方にアピールするかです。**大学の先生が「これはウチの大学に来てほしい！」と思えるような答案作りをすれば良いのです。私は長年、大学（東京大学）や大学院で数学の研究をし、ＴＡとして大学で学生の指導をした経験もありますので、大学側が受験生に何を求めているかが良くわかります。

私の授業では、**小手先のテクニックではなく、大学に入ってからも授業にきちんとついていけるような教え方をします。**

積分であれば、その根幹から教えて、いくらでも応用が利くような授業を展開します。数学の本質をしっかりと理解し、ぜひ第一志望の大学に合格して頂きたいと思います。

高橋直人講師の授業風景。1人ひとりノートの取り方、答案の書き方から指導します。このようなきめ細かい指導は少人数クラスでないと不可能です。

生徒からの質問に答える高橋講師。高橋講師のクラスは生徒一人ひとりの特性に応じた授業をしたいという高橋講師の強い希望がありクラスの定員は12名程度にしてあります。

合格者の声

東京大学文科Ⅱ類合格
菅沼修祐さん
私立武蔵高校

★3年に渡り、数学を基礎から教わりました。模範解答を示しつつも、生徒の答えも尊重するスタイルが僕に合っていたと思います。そのおかげで数学は大きな得点源となりました。数学で合格したと言っても過言ではありません。ありがとうございました。

日本医科大学医学部合格，
徳島大学医学部合格，
帝京大学医学部合格
内田裕大さん
暁星高校

★中学1年生から高校2年生まで、長い期間、お世話になりました。先生の授業は基礎をかなり深く理解でき、演習を積むことで応用的な難問をすらすらと解くことができるようになりました。また、発展のプリントをくださり、生徒一人ひとりにあったカリキュラムを与えてくださるので、とても順調に成績を伸ばすことができました。授業外での質問などにも親切かつ丁寧に教えてくださり、数学を楽しく、早く完成させることができました。

島根大学医学部合格
戸田有紀さん
都立青山高校

★授業が少人数だったので気軽にわからないところを質問できてよかったです。

数学科

岳野雅継

数学が苦手な生徒でも みるみる成績が上がる授業!

【クラス定員8名程度】

岳野講師は、有名医学部予備校で長年責任者を務めたトップレベルの講師です。

塾長から見た岳野講師。

岳野講師は一人ひとりの生徒にとことん真剣に向き合います。長年の経験に裏付けされた授業は高い評価を得ています。

岳野講師が語る。

【はじめに】

数学を担当しています岳野です。受験指導を開始して15年が経ち、非常に多くの、様々なタイプの学生の指導を行ってきました。その中で指導上最も気を配っていること、工夫をしていることを中心に私の講座の説明をさせていただきたいと思います。まず、私の指導の根幹にあるのは**高度な内容やテクニックを伝える指導ではなく、難関大学合格に必要な学力を身に付けてもらい、合格してもらう**ということです。ですので、**伝えた内容がきちんと定着されているかのチェックを多角的にかつ徹底的に行う**ということに、最も注意を払っております。

【クラスの大まかな特徴】

実際に自分の力で難関大学の問題を解くために必要なことは何か。それは、**基礎的な概念を完璧に理解すること**です。ただ、その表現は易しく見えて、実行に移すのは難しい。その方法が分かっている上で自学自習を行っている生徒はやればやるほど学力は伸びるのですが、数学の勉強をやっているつもりになっている生徒が圧倒的に多いのです。そこで、私の講座では**学校では習うことのできない数学の本質が知りたい。そして、東大や医学部をはじめとする最難関大学に合格したい方**が対象となります。

そのために、学校で習ったことの補習や、ただただ難関大学の過去問題を解説していくといった授業は行いません。また、いかに効率よく問題を片付けられるか、いかに楽をするかといった方法を伝えるような授業も行いません。繰り返しますが、私の授業では、問題を解くうえで必要で、他で学べないような基礎概念の徹底的な指導が中心となります。

私の講座では、数学の知識を増やすとか解ける問題を増やすことよりも**多角的に、深く理解し、身体から蒸発しない数学の基礎概念が身に付き、それをもとに難関大学の問題が自分の力で解けるようになる**ということが最終目標となります。

そうやって学習したことは定理、公式、解法を覚える必要がなくなるのです。

以上の、目標を達成するために実に多くのことに工夫を凝らします。その一部をご紹介いたします。

【指導上工夫していること】

①小人数であることにこだわりますで、**クラス定員は12名**までとさせていただいております。

②生徒の反応をよく観察し、**生徒に説明させるなど**、理解がきちんとできているかを常に確認しながら慎重に授業を進めます。また、毎回、**理解度確認テスト**をやってもらい、生徒が**どのくらい理解・定着できているのかを把握しながら授業を進めます。つまり、inputとoutputのバランスに最大限に注意を払い、指導いたします。**

③授業前後に生徒一人ひとりに面談や個別指導を行うことで、生徒の計算ミスの癖や、理解がまだ曖昧な部分を完全に把握し、正しい勉強法を説明し、**間違った方法を常に修正します。**

④授業は講師でなく、**生徒が主体となる形**で行います。つまり、常に生徒に考えてもらい、生徒自ら正答を出すように指導をします。

⑤難関大学で頻出な単元、生徒が苦手とする単元には他の単元以上に解説時間を割くようなカリキュラムで進めます。

⑥授業に**全員がついていけるように**常に気を配っております。**ここに私は特にこだわっております。**

⑦**完全オリジナル教材**を用いて、効率よく全単元の学習ができるように工夫しています。なお、教材は(1)予習教材(2)授業教材(3)復習プリント(4)演習プリントなどで構成されています。さらに、**生徒に応じて苦手単元を完全に克服するための教材**を**個々人**に作成しております。

〈予習教材〉

⑧どのように表現するか、つまり、入試の記述対策として、**添削教材**をレベル別、大学別に用意しています。その教材の問題を指定された解答用紙に解答してもらい、それを**1字1句添削**いたします。できない問題に関しては小刻みにヒントを出し、何度も再提出を求め、自力で解答してもらいます。15年ほどその指導を続けており、受験生がどのような部分で記述しにくいのか、間違えやすいのかを熟知しておりますので、それをトレーニングするための教材を多く開発しております。

⑨学校の試験の補習は授業内では行いませんが、それが必要な生徒は授業外で行うこともあります。

最後になりますが、私の授業のレベルを一定の水準に保つため、以下の制限を設けさせていただきます。

【受講の条件】

・現段階の成績・学力・通っている学校は問いません。どうしても、数学の本質を学び、数学を得点源にしたいという**意識の高い**生徒が対象です。

・中間/期末試験前後にかかわらず必ず毎週出席できる生徒

・授業だけでなく授業前後の面談を行っても可能な生徒

・授業以外の課題・添削指導を受けることができる生徒　＊教材費、面談費用、個別指導、添削指導の料金は一切かかりません。すべて頂いた月謝の中で行わさせていただいております。

・授業に無断で出席しない、遅刻をする、居眠りをする生徒は受講できません。

・途中入学者には、授業以外でフォローを受けていただきます（必須）

【受講の流れと注意】

まずは、私の授業を受けてみたいという方は成増塾までご連絡ください。1回目の授業前あるいは後に個人面談を行います。生徒の一人ひとりの苦手部分、得意にしたい部分などをできるだけ把握して授業を行うためです。授業だけ受ければ学力が伸びるという期待を持った方は受講を再考下さい。授業、面談、課題、個別指導がセットで、常に生徒が主体的に課題、復習をやってくることを厳しく要求させていただきます。もちろん、その復習方法や勉強方法の細かい指導を行います。

【さらに】

指導する上で気を付けていること工夫していることは紙面上ですべて表現できません。お話を聞きたい方、ご質問がありましたら成増塾までお問い合わせください。納得できるまでご説明させていただきます。

数学科

七沢明子

知らないあいだに数学の成績がみるみるアップ!

【クラス定員8名程度】

塾長から見た七沢講師。

七沢講師は都内の有名進学校で長年教鞭をとってこられた受験指導の経験が豊富なベテランの講師です。どんな質問にも丁寧に答えてくれる頼りがいのある講師です。

七沢講師が語る。

【自己紹介】

大学の数学科を卒業して以来25年以上都内の私立中高一貫校で教鞭をとっています。新しい挑戦をしようと思い3年前より成増塾でも授業を担当することになりました。顔を出せないほどのおばちゃんですが、毎年100人以上の生徒を見てきたノウハウ、娘と息子二人の子供を育てた経験を生かし、一人一人にあった指導を心がけていきます。

【指導方針】

常にどうしてだろう、なぜだろう、違う道はないか、どうしてこれではだめなのか。疑問や探求心を持つことを忘れない、質問することを恐れないそんな人であってほしい。数学だけではなく物事に対して本気でぶつかる、とことん考える、すぐにあきらめない。そんな人になってほしい。いつもそう思い、生徒と接しています 。

数学には、①理解する・②解ける・③きちんと答案が書けるという3つの段階があります。

理解させるのは私の仕事、でも解けるようになるまでは子供たちの努力、そして点が取れる答案を書けるようにするのも私の仕事、もちろんこの順に理解し、解け、点数が取れるなら問題はないのですが、理解せずに解けてしまい、点数が取れてしまう生徒がいます。そんな生徒を見つけ出し、理解するまでとことん教える。勉強の仕方を教え、自分で勉強できる子に育てる。それを目指しています。

手厚いフォローはすぐに成績は伸びますが、自分の弱点を自分で見つけられなくなる。そんなことが無いように、フォローしつつ、待つ、見守る指導をしています。

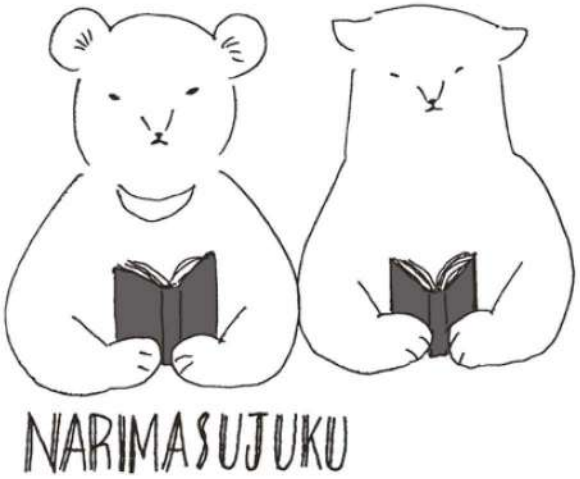
しばらくは中学生中心の指導で基礎力，勉強習慣の徹底，学校，部活との両立を目指し指導していきたいと思っています。

徹底した個人指導ができるよう，定員は10名としています。

【指導内容】

中1，2は体系問題集，新中学問題集をベースにオリジナルテキスト、プリント演習。

中3は数学ⅠAを高1はⅡBをオリジナルテキストやプリントで受験レベルまでもっていく。
高2，高3はしばらく若手に任せます。

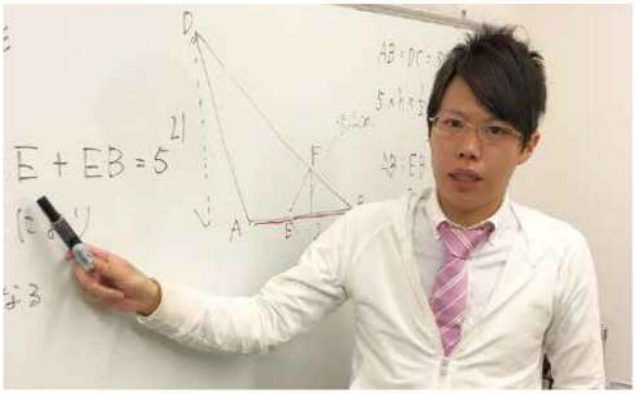


数学科

森川翔太

知らないうちに数学を大好きにしてくれる授業!

【クラス定員8名程度】



塾長から見た森川講師。

森川講師はとにかく生徒思いで、いつも生徒のことを第一に考えてくれます。ご自身が「数学の問題を解くのが大好きで数学の楽しさを伝えたい」と言っておられることからもわかる通り、森川講師の授業を受ければ知らないうちに数学を好きになるはずです。

森川講師が語る。

【自己紹介】

大学生から家庭教師・塾(個別・団体)と長期にわたり中学生に数学の授業を行っている。私、自ら数学に対して挫折した経験があり、自主勉強により問題の見方・工夫を見付け取得。数学の「良さ・面白さ」を自ら感じ、数学が「苦手」な生徒の気持ちに寄り添ってきた。「予習・復習」を大切にしている為、必要に応じて授業前に行い、快適な授業を心掛けている。

性格:真面目で上がり症。温厚な一面もあり、
　　臨機応変に生徒と向き合います。
趣味:ディズニーリゾート巡り・遊戯王(OCG)・ガンプラ
好きな動物:カピバラ・モルモット・ハムスターなどのネズミ科
好きな飲食:焼肉・寿司が一番(漬物が苦手)

【授業方針】

基礎』と『発展』の二つの構成で授業を進めます。授業の前半は知識を高める為の基礎授業、後半は実力を高める為の発展授業。実力を高める為の授業を目的としている為、2:3の割合を目安に行います。速度は生徒の理解度(理解できた生徒の比率)に合わせて進めます。

●基礎授業●

単元ごとに必要な公式や法則を細かくまとめ、実際に問題を通して使い方を説明します。その時、問題の見方や順序も一緒に解説します。公式に関しては、授業中に暗記する時間を設け、覚えたどうかの確認もします。

その後、公式や法則を使った問題を実際に練習し、問題の見方や解き方のコツを実感してもらう。

例えば、次の問題をこの様に説明します。

$$\begin{cases} 2X + Y = 5 & \cdots ① \\ X + Y = 3 & \cdots ② \end{cases}$$

☜係数を合わせる必要なし。

①+②×(−1)

足し算にして−1倍すれば、符号のミスが減る。

$$\begin{array}{rl} & 2X + Y = 5 \\ +) & -X - Y = -3 \\ \hline & X \quad = 2 \quad \cdots ③ \end{array}$$

③を①に代入する

最小の値で留めることができる。

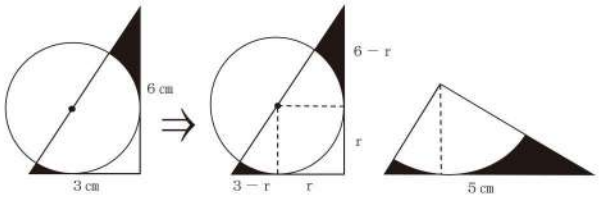
$$\begin{aligned} 2 + Y &= 3 \\ Y &= 3 - 2 \\ Y &= 1 \end{aligned}$$

よって、(X, Y) = (2, 1)

上記の様に補足を加えつつ、問題の見方・工夫を解説します。例として、白黒の解説になりますが、授業では色分けをしながら言葉や文字を盛り込み、細かく説明します。

●発展授業●

高度な技術が必要な問題を練習します。ここでは、問題に対する「見方・工夫」を高める為の授業を目的としています。高度な問題でも公式や法則を知っていれば解けるんだと実感させる場になります。例えば、次の黒く塗られた面積をどのように解くのか着目します。



〈見方・工夫〉
・三角形から出てる半円は不要。 ・中心から垂線を2本引く。
・垂線により、1辺(半径) r cmの正方形ができる。 ・相対比(3 − r):r = r:(6 − r)
・正方形は不要。 ・残りの図形を合わせる。 ・三角形の中は90°のおうぎ形。

以上のように図形を個々の力で分析し、必要な補助により隠れた値を導ける為に練習していきます。「高度な問題が解ける」=「公式や法則を使いこなせる」+「多くの問題をこなしている」どの問題でも対応できる為には、基礎知識と使いこなせる応用が必要な為、授業中の問題練習の他に宿題による練習も行います。

●補修授業●

通常授業の速さに付いて行けなかった場合、通常授業とは別の時間帯に授業の復習や宿題の復習を行います。この授業は任意になりますので、希望があれば互いのスケジュールを確認しながら授業を行います。

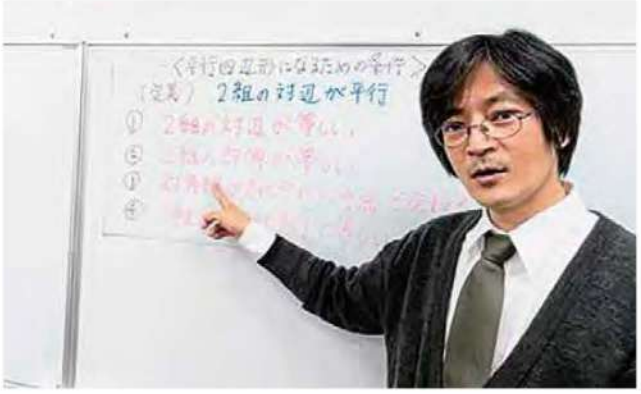
また、授業中に解いた問題や宿題の出来によっては、私からお声掛けをすることもあります。

数学科

横山秀樹

丁寧な授業で
苦手意識のある生徒も安心!

【クラス定員8名程度】



赤嶺幸隆

生徒とコミュニケーションを
取りながら進める授業。

【クラス定員8名程度】

横山講師が語る。

【講座内容】

中学生の数学を担当しています。ただ一口に中学数学といっても、数年後の国公立難関大学の合格を仰ぎ見ながら勉強を積み重ねてゆくわけですから、進度は一般の公立中学と比べるとすこし早く進みます。中1の間に「連立方程式」や「図形の証明」までマスターすることを目標に授業を進めています。ですから、同じように進度が早い6年制の中学校に通いながら、学校の授業についてゆくことに不安を感じている中学生には、特におすすめしたい講座です。

当講座では、いわゆる“代数分野”と“幾何分野”を毎回半分くらいずつ扱っています。進み方が少し早くなる分、講座での授業には基本的な問題の説明から丁寧に始めます。

単元ごとに完結型のプリント学習の形をとっており、易しい問題から初めてやや難しい問題までふれることができるように工夫しています。つまり、最終的に難しい応用問題を考える力を身に着けるために、基礎力をしっかり養ってもらう、というのが当講座の基本方針といえます。

当講座で基礎力に対する不安をなくし、塾の授業と学校の授業が両方ともよくわかり楽しい、という状態になったら、塾と学校がまるで車の両輪のようにグルグルと回りだし、数学がどんどん前へ進んでゆくようになると思います。

塾長から見た赤嶺講師。

赤嶺講師は多くの塾で研鑽を積まれてきました。授業がわかりやすい事はもちろん、生徒とコミュニケーションをとりながら授業を進めていくので数学が苦手な方でも安心して受講して頂けます。

赤嶺講師が語る。

【指導方針】

一方通行な授業ではなく、演習等で躓いていたりしたらその分野の問題を中心に指導しますので、要は生徒とのコミュニケーションを大事にしながら演習授業形式で授業を行います。

入試傾向やテストや模試で出題されそうな問題をピックアップしてオリジナルプリントを作成して授業の時に配布します。

【受講生に向けてのメッセージ】

一度気軽に体験授業をうけてみてください。どんな感じで授業をするのかわかると思います。私の授業で提示するポイントや解法を自分のものにすれば、テストの成績の上昇は、もちろん、第一志望大学に合格すると思います。正式に私の授業を受けるときは、是非一緒に頑張っていきましょう。

数学科・国語科・社会科

高島 穣

●国語科

一生身につく論理的思考力、
表現力が早い時期に身につけます!
【クラス定員8名程度】

すべての科目の土台になる論理的思考力、表現力をたくさんの長文問題と取り組むことで徹底的に身につけてもらいます。正解、不正解だけを気にするのではなく、なぜこの答えでなければならないのか、筆者はどのような論理展開で自分の主張をしているのかをていねいに解きほぐしていきます。2020年の新テストに完全に対応していきます。

●数学科

中学数学がとにかくわかりやすい!
数学が苦手の人にもオススメの講座!
【クラス定員8名程度】

中学数学の全体像を1年で見渡し、数学の基礎的な考え方を確立します。中間、期末で高得点を取れる勉強法を伝授します。高校受験をする人には特別の対策をします。まずは基礎事項から始め応用問題、発展問題まで解けるよう無理なく指導していきます。そして毎回の小テストで理解を確認します。

●社会科

中学で勉強すべき社会の重要事項を
徹底的にわかりやすく解説します。
短期間に最高水準の知識を身につけ、
得点力をアップさせる秘訣を教えます。

【クラス定員8名程度】

歴史分野→歴史の流れを理解させ短期間に得点力アップさせるサブノートの作り方や暗記の仕方を教えます。
公民分野→早稲田大学の法学の授業のテキストの執筆者の1人でもある高島講師が憲法の基本的な考え方、現代社会の仕組みを深く、わかりやすく教えます。

理科

岳野雅継

中学理科の基礎から応用、発展までを
無理なく解けるようになります。

【クラス定員8名程度】

岳野講師は、有名医学部予備校で長年責任者を務めたトップレベルの講師です。一人一人の生徒にとことん真剣に向き合います。

長年の経験に裏付けされた授業は高い評価を得ています。

社会・理科

中山洵一

高校受験のスペシャリストが
楽しくわかりやすく教える。

【クラス定員8名程度】

中山講師は高校受験のスペシャリスト。

生徒一人ひとりの心情をつかみ取り、一人一人に寄り添って丁寧に指導を進めていく優しい先生です。

スタッフ

成増塾の５つの校舎には、受付係を兼ねたスタッフが勤務しています。
生徒の皆さんが、より良い環境で学習出来るように応援サポートする頼もしい存在です。

事務スタッフ
三浦久恵

パソコンのインストラクターの経験もあるキャリアウーマンです。丁寧でフレンドリーな対応でどんな相談にも応じてくれます。

事務スタッフ
内河祐子

いつも笑顔の絶えない元気いっぱいの内河さん、頼りになるお姉さんです。

事務スタッフ
落合真也

事務統括チーフの落合真也さん。誠実な人柄と正確な仕事ぶりでみんなから信頼されています。落合さんは世界史の講師も兼任しています。

事務スタッフ
加藤悦子

塾生にいつも優しく対応してくれる加藤さん。心強い味方です。

事務スタッフ
齊木友美

イラストレーターとしても活躍の齊木さん。仕事の正確さには定評があります。成増塾のガイドブック表紙等にも齊木さんのかわいらしいイラストが使われています。

事務スタッフ
田端優美

仕事熱心でどんな仕事でも笑顔で対応してくれます。成増塾各校舎には塾生の合格を祈願した田端さんたちの作った千羽鶴が飾られています。

事務スタッフ
高橋千晶

どんな仕事もテキパキとこなしてくれる明るくてエネルギッシュな高橋さん。とても頼れるスタッフさんです。

成増塾各校の受付では、今日もスタッフが笑顔で生徒の皆さんを迎えます。右写真は、各校舎に飾られている、スタッフ手作りによる“合格祈願”千羽鶴。

成増塾
マスコットキャラクター!?

スナップ写真で綴る

成増塾アラカルト

高田馬場本校の入り口靴置き場。成増塾では生徒がリラックスして学習できるように、まずは全員がスリッパに履き替えます。

英語科 甲斐講師の人気の秘密を探るべく、“成増塾マスコットキャラクター”が授業に潜入!?

受験シーズンの自習室のホワイトボード。塾生が暗記必須の重要事項のまとめに活用しています。

受付の三浦さんと談笑する生徒の皆さん。女子会トークでおおいに盛り上がっていました。

成増塾の照明はすべてLEDです。蛍光灯のようなチラつきがなく長時間勉強しても目が疲れません。

高田馬場本校の自習スペース。生徒は授業のない日でも何時でも自由に使うことが出来ます。

成増塾名物の『疲れた時の息抜きキャンディ』。生徒はこれを自由にとることができます。糖分を補給し、頭の働きを回復させます。

年に3回、成増塾の生徒は特待生試験にチャレンジするチャンスがあります。特待生試験の緊張した雰囲気の中で、生徒は本番の試験会場の雰囲気に圧倒されない、強い精神力を培うことができるのです。

特待生試験の採点は成増塾のスタッフにとって重要な仕事です。採点はミスがないように複数のスタッフによって二重、三重にチェックされます。

合格者の声

【2009年～2020年合格者より】

**成増塾に在籍して
難関大学に合格した
先輩たちからのメッセージ。**

合格 東京大学

川合 淳也さん
東京大学理科I類合格
都立戸山高等学校

公立高校で部活の引退も遅く、最後の模試の結果も最悪でしたが門脇先生の英語にとどまらない全教科にわたるアドバイスのおかげで現役で合格することができました。本当にありがとうございました。

高木 友貴さん
東京大学文科I類合格
お茶の水女子大学附属高校

門脇先生の授業はテキスト、授業の解説含め全ての点でハイレベルで、先生の教養あるお話しも非常に面白かったです!門脇先生の授業だけしっかりこなせば東大英語の対策は十分です。

小林 知奈さん
東京大学理科II類合格
桜蔭高等学校

事務の方々に優しく話しかけていただき、嬉しかったです。ありがとうございました。受験は定期テストとは違い、長期戦です。焦って無理に睡眠時間を削っても1年続きません。時間を有効利用すれば成績は上がるはずなので、自分に最適なペースで頑張ってください!

菅沼 修祐さん
東京大学文科II類合格
武蔵高等学校

正しい方法で、必死に努力すれば、自ずと実力はついてきます。成増塾の先生方についていけば間違いありません!

杉山 紗弥佳さん
東京大学文科III類合格
都立小石川高等学校

とてもアットホームな環境で、楽しみながら勉強することができました。また、自分の勉強スタイルを全く変えずに塾に通うことができたため、利用しやすかったです。後輩へのアドバイスとしては、「A判定は20%の確率で落ちる」ということと、「どこに落ちても第一志望を見つめる強さを持つこと」です。受験終われば暇なので、それまで自分のベストをつくして下さい!!

藤井 達也さん
東京大学理科I類合格
城北高等学校

門脇先生の英語には大変お世話になりました。入塾前は苦手だった英語が、一年後には平均点を取れるどころか、多くの点数を稼げる程得意になりました。英語は文理問わず、出来ると非常に有利な科目です。難関大学(特に東大)を目指す方にはぜひオススメの先生です。

合格 国立医学部

内田 裕大さん
日本医科大学医学部合格
暁星高等学校

英語は文法、解釈、長文読解の全てが、上手くカリキュラムに組み込まれていて、受験において最大の武器になりました!物理は高3の4月に偏差値が40台でしたが、センター試験では9割を超えられるくらい素晴らしい授業でした!中1から6年間本当にお世話になりました!

北村 謙太さん
筑波大学医学群医学類合格
立教新座高等学校

成増塾には最高の先生や仲間、そして環境が揃っていると思います。目標を高く持って最後まで諦めずに頑張ってください。

合格 一橋大学

志賀 俊希さん
一橋大学商学部合格
早稲田高等学校

成増塾の授業の質は相当高いと思いました。自分は成増塾以外の某大手予備校にも通っていましたが、成増塾の方が断然質が良いです。ですので、その質を活かすも殺すも受講者次第だと思います。授業の予習・復習をしっかりやれば十分に力をつけることができ、どんな難関大でも闘っていけると思います。本当にありがとうございました。

合格 京都大学

上田 直毅さん
京都大学農学部応用生命学科合格
海城高等学校

入塾した時、英語は好きであるにも関わらず、苦手科目でした。集団授業の中でも、個人との面談をかかさずに行い、生徒一人一人の状況に合わせてアドバイスや、やる教材を教えていただいたお陰で、最後にはむしろ得意科目になりました。本番ギリギリまで添削して頂いたのも、力強い励みでした。中島先生にはとても感謝しています。

田中 美帆さん
京都大学総合人間学部合格
豊島岡女子高等学校

クラス分けがなかったのが嬉しかったです。私はモチベーションが上がりました。難しい内容の(教え方は分かりやすかったです)授業を受けて分からないなりに必死についていくことで私の場合は効果があった部分もあると思います。受付の人も話しやすくて居心地が良かったです。ありがとうございました。

2019年合格祝賀会より志望校に合格した卒業生の皆さんと、世界史・落合講師との喜びのショット。

合格 私大医学部

田村 健吾さん
日本医科大学医学部医学科合格
筑波大学附属高校

大学進学以降も様々な場面で使うことになる英語を、単に試験で点数を取るための力としてだけではなく、今後にも活かされ発展される力として教えてくださいました。また、他教科の勉強法なども指導下さり、合格に欠かせないものでした。

奥村 優さん
北里大学医学部医学科合格
立教新座高等学校

学校の友人に勧められて受講しました。授業の質、他教科の勉強法等、何を取っても門脇先生は素晴らしいと思いました。そして何よりも推薦入試の時の全く勉強してこなかった小論文、面接の対策、志望書の添削、担任に丸投げされた推薦書のカバー等本当に助けられました。門脇先生には感謝してもし切れません。

北村 夏陽さん
杏林大学医学部合格
宝仙学園高等学校

先生の教え方は、英語を学ぶ上で最も近道だったと思います。授業もおもしろく、試験関係なく、英語が好きになりました。受験後も受け続けたい授業です。また、1人1人に合ったアドバイスをして下さいます。本当にありがとうございました。

合格 東京工業大学

古賀 千晶さん
東京工業大学第四類合格
お茶の水女子大学附属高等学校

成増塾は1クラスの人数が少ないため、先生と生徒の距離が近く、すぐに質問できるのが魅力だと思います。石川先生は、質の高い問題を多くこなし、その後に一つひとつ丁寧に解説していく授業スタイルで、演習授業でも生徒のミスを的確に分析して下さるので、非常に良かったです!!

鍋島 未萌さん
東京工業大学 第3類合格
広尾学園

分かりやすくて楽しい授業でした!毎回多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました!!まわりのみんなの意識や集中力に刺激を受けて成長することができたと思います。ありがとうございました!

合格 東京学芸大学

須藤 崇匡さん
東京学芸大学教育学部合格
成城高等学校

すごく面倒を見て頂きました。面倒見の良さが非常にウリであると思います。また、文法や精読のプリントを出して頂き、助かりました。化学は基礎から発展までを手広く扱いました。講義の所が原理に基づいた説明で本質を理解できました。

合格 早慶上智

松永 卓さん
早稲田大学商学部
武蔵高等学校

ただやみくもに勉強するのではなく、自分は今何のための勉強をしているのか、自分には今、どんなことが足りていないのか常に考えながらがんばってください!!

平松 大武さん
慶応義塾大学理工学部合格
攻玉社

成増塾では本当に色々とお世話になりました。今城先生は「先生」というよりかは勉強における先輩という感じでたくさんの有効な勉強法を教えてもらいました。また最後の最後までずっと面倒を見てくれ、本当に感謝しています。高橋先生の授業は高1の頃からとっていましたが、宿題の重さがいつもちょうどよく、授業の進行スピードも絶妙でした。先生のおかげで基礎もわからなかった確率が得意科目になりました。

磯部 真緒さん
早稲田大学創造理工学部合格
豊島岡女子学園高等学校

大変良かったのは高島先生の英語、長谷川先生の化学、押川先生の物理です。特に英語と化学は先生方のおかげで「得意科目」になり、本当にお世話になりました。(特に東大)を目指す方にはぜひオススメの先生です。

塩谷 晴香さん
慶応義塾大学文学部合格
國學院高等学校

成増塾に入ったからこそ慶應義塾大学に入学することができました。中学の時の経験からあまり塾のことは好きではなかったのですが、下高井戸校の受付の方、先生方は皆温かく見守って下さり勉強する楽しさを知ることができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです!

安納 美紀さん
慶応義塾大学法学部合格
渋谷教育学園渋谷高等学校

数学の安田先生の授業を受講しました。高3の春からだったけど、一気に成績が伸びました。ありがとうございます。他の講座と比べ宿題が多くスパルタだという話しですが、そんなこと知らずに受け始め、実際宿題もそんなに辛くなかったです。楽しかった。

黒田 カンナさん
慶応義塾大学経済学部合格
豊島岡女子高等学校

成増塾の自習室が大好きでした。先生方が部室にいらっしゃるのでだらけずに勉強することができました。すぐ横に友達が勉強しているので良い刺激にもなります。受付の方とのちょっとした雑談がいやしでした。成増塾には他の塾とは良い意味で変わっている所がたくさんあります!

直筆でお伝えする、合格者の声

先輩達の喜びが直接伝わる、熱きメッセージです!

村上さんは、第一志望の慶応大学医学部以外にも、千葉大医学部、順天堂医学部、慈恵医大医学部等、受験した大学全てに合格しました。左から、押川講師、村上さん、高島講師の喜びの3ショットです。

■受講講座:英語／高島講師
■受講講座:物理／押川講師

私は成増塾で高島先生の英語と押川先生の物理の授業を受講していました。お二人とも生徒一人一人に親身に対応してくださる本当に頼れる先生です。
英語の高島先生の授業では徹底した構文理解と単語熟語暗記によって、合格に必要な英語基礎力をしっかりと身につけることが出来ました。
そして、押川先生は物理が大の苦手だった私に一から物理の考え方を教えてくださいました。結果、偏差値も30近く上がり、合格を引き寄せた最大の勝因になったように思います。直前期には数学の講習でもお世話になりました。
どちらの先生の授業も、それ無しでは合格できなかったと思います。
本当にありがとうございました。

慶応義塾大学医学部合格
村上諒典さん
暁星高校

■受講講座:英語／中島講師
国語／山下講師
世界史／落合講師

少人数制の授業がとてもよかったです。私にぴったりでした。
先生方もすばらしい方達で、私の合格に導いてくれました。
とにかく環境がよく、この1年、勉強面以外でブルーになることはありませんでした。本当にありがとうございました。
後輩達へ　先生方を信じれば、きっと大丈夫です。がんばって!

早稲田大学商学部合格
馬場 貴也さん
高島高校

■受講講座:英語／門脇講師
国語／山下講師

成増塾は授業内容が本当に充実していて、緊張感はありながらアットホームな雰囲気の授業なので、勉強は大変でしたが本当に楽しかったです。少人数のため先生との距離が近くどんな質問にも丁寧に答えて下さり感謝の気持ちでいっぱいです。成増塾に入塾して本当に良かったです。
今まで本当にありがとうございました。

上智大学
総合人間科学部合格
田村乃愛さん
吉祥寺女子高校

■受講講座：英語／門脇講師

僕が受けていた授業は英語の門脇先生と物理の木下先生の授業を受けていました。木下先生はもうお辞めになってしまったので、門脇先生の授業についてです。門脇先生は頭が良かったです。実に、論理的に授業を進めてくれます。少々難しい内容ではありますが、ふわれたことを実践すればいいだけです。

さらに、授業よりも授業外でのケアがスゴい。授業の質問だけではなく、英語の勉強の仕方、さらには他の科目の勉強の仕方、参献書なども卒先して相談してくれます。~~門脇先生の授業を取れば、全科目の授業を取ったもの~~ 計画も立ててくれます。

門脇先生の話はこのぐらいにして、僕がこの塾を選らんだのは圧倒的な at home 感です。高田馬場校では外履をぬいで、スリッパ校をはけたり、校舎が空いていればいつでも自習できたり、~~後~~とまあこんな感じ。先生と話していて夜遅くなったこともなつかしいです。

そして、何よりここで育れる友情は~~教~~受験勉強を楽しくしてくれるでしょう。最後に先生方、事務の方、そして皆ありがとうとか言ってみる。

一橋大学商学部合格
志賀 俊希さん
早稲田高校

■受講講座：数学／押川講師

授業のレベルが高く、最初はついていくことができるか不安でしたが、予習・復習をしっかりすることで数学が得意になり、一橋の数学も苦にすることなく、実力を発揮できました。

■受講講座：英語／甲斐講師

S、V、O、C も分からなかった自分に基礎から丁寧に教えていただき、最終的には、早慶レベルまで引き上げていただき ありがとうございました。

早稲田大学
創造理工学部合格
高橋 立さん
芝高校

■受講講座：英語／門脇講師
数学・物理／押川講師
国語／山下講師

先生方が明るくとても楽しく勉強できた。

教室に掃除がいきとどいていたのでとても衛生であって快適だった。

授業自体はどの先生も工夫しているので、レベルが高くかつ分かりやすいものだった。

一年間お世話になりました！

京都大学
医学部合格
符 毅欣さん
城北高校

東京大文科三類合格
杉山 紗弥佳さん
小石川高校

■受講講座：世界史／落合講師

テキストのフローチャートがわかりやすく、それを写真を撮る形で頭に残せば結構問題が解けるようになります。頻繁に事務にいらっしゃるので質問するととても詳しく答えて下さいます。

■受講講座：数学／石川講師

1つの問題を原理まで掘り下げて解説して下さるので、問題のイメージを頭の中で形成しやすかったため、応用をきかせやすかったです。長期休暇には沢山問題をいただけます。

合格祝賀会にて。志望校に合格し、門脇講師に喜びの報告をする卒業生の皆さん。

入会金・授業料

※オンラインでの受講も同額です。

入会金

30,000円（＋税）

科 目

英語、数学、国語、理科／社会（２科目でセット）

授業時間・授業回数

各科目とも１回２時間、月４回（各タームとも１回２時間の季節講習が４回追加されます。）

校 舎

成増校、高田馬場校、下高井戸校、西葛西校、白金台校、計５校があります。

最寄りの校舎をお選びいただけます。

授業料

１科目授業２０回（＝１ターム分）につき**100,000円（＋税）**。

●授業料は原則としてターム単位でお支払いいただきますが、ターム途中での入塾の場合には受講回数に応じてのお支払いとなります。

●特待生、準特待生、奨学生に認定されると授業料はそれぞれ5割、4割、2割の減額となります。

●個別指導をご希望の方は成増塾講師による個別指導を受けることができます。1科目授業4回ごとに**80,000円（＋税）**です。

●教材費は各ターム**15,000円（＋税）**です。（途中入塾の場合、月単位でお支払いいただきます。）

●授業の曜日に関しては詳細は成増塾発行の時間割りをご覧ください。
詳しい日時に関しては成増塾までお問い合わせください。

成増塾では予約をすれば常に授業を体験することができます（ただし英語、数学は、体験の前に実力診断テストをお受けいただきます）。

●実力診断テストをお受けになる際は、必ずご予約下さい。

●授業を体験したい方は、成増塾までお気軽にお問い合わせください。

●各クラスとも定員になり次第締め切らせていただきます。

特待生制度

「東大、国立大医学部合格率100パーセント」を目指します。

２００５年より始まった成増塾の特待生制度。この制度は「東大、国立大医学部合格１００パーセント」を目指してスタートされました。

２０２０年までの入試の結果は特待生制度の「東大、国立大医学部合格１００パーセント」を裏付けるものとなりました。

準特待生、奨学生の中にも国立大医学部、一橋大、東工大などに合格する者が多数含まれ、成増塾の特待生制度のレベルの高さを実証しています。

★特待生試験で特待生、準特待生、奨学生に認定されると授業料はそれぞれ５割、４割、２割の減額となります。

★ちなみに成増塾から千葉大、筑波大、北海道大、横浜国大、首都大、等の上位国立大学、早稲田、慶応、上智、理科大、私立医大に合格している生徒のほとんどは一般生です。

2020年合格実績

特待生3名中―― **東大理I:2名、東大文I:1名合格(100%)**

準特待生3名中― **東大文II:1名、東大理II:1名、東京医科歯科大学:1名合格(100%)**

奨学生2名中―― **東大文II:1名、神戸大医学部:1名合格(100%)**

2019年合格実績

特待生3名中―― **東大理I:2名、東大文II:1名合格(100%)**

準特待生2名中― **東大理I:1名、東大理II:1名合格(100%)**

奨学生2名中―― **東大文II:1名、千葉大医学部:1名合格(100%)**

2018年合格実績

特待生3名中―― **東大文II:1名、東大理I:2名合格(100%)**

準特待生3名中― **東大理I:2名、東大理II:1名合格(100%)**

奨学生2名中―― **千葉大医学部:1名、岐阜大学医学部:1名合格(100%)**

2017年合格実績

特待生3名中―― **東大文I:1名、東大理I:1名、徳島大学医学部:1名合格(100%)**

準特待生2名中― **東大理I:1名、東大理II:1名合格(100%)**

奨学生3名中　　**東大文II:1名、東大文III:1名、東大理I:1名合格(100%)**

2016年合格実績

特待生3名中―― **東大理I:2名、東京医科歯科大:1名合格(100%)**

準特待生2名中―― **東大理I:1名、東大理II:1名合格(100%)**

奨学生3名中―― **京大法学部:1名、名古屋大学医学部:1名、横浜市立大学医学部:1名合格(100%)**

合格実績

東大・医学部・早慶上智・難関国公私立大学に圧倒的な強さを誇ります!

【2009年～2020年合格実績】

●東京大学
- 文Ⅰ……4名
- 文Ⅱ……14名
- 文Ⅲ……12名
- 理Ⅰ……27名
- 理Ⅱ……11名

国立大学医学部
- ●京都大学……2名
- ●千葉大学……8名
- ●東京医科歯科大学……4名
- ●神戸大学……1名
- ●広島大学……1名
- ●秋田大学……1名
- ●横浜市立大学……1名
- ●岐阜大学……1名
- ●東北大学……2名
- ●新潟大学……2名
- ●北海道大学……1名
- ●徳島大学……1名
- ●浜松医科大学……3名
- ●信州大学……3名
- ●山梨大学……2名
- ●防衛医科大学校……5名
- ●福島県立医科大学……1名
- ●島根大学……1名

私立大学医学部
- ●慶応義塾大学……3名
- ●東京慈恵会医科大学……8名
- ●順天堂大学……14名
- ●日本医科大学……11名
- ●国際医療福祉大学……4名
- ●東邦大学……9名
- ●自治医科大学……1名
- ●昭和大学……14名
- ●東京医科大学……3名
- ●日本大学……3名
- ●獨協医科大学……2名
- ●福岡大学……1名
- ●北里大学……8名
- ●帝京大学……5名
- ●埼玉医科大学……5名
- ●東京女子医科大学……6名
- ●杏林大学……4名
- ●金沢医科大学……1名
- ●東北医科薬科大学……1名
- ●東海大学……2名
- ●聖マリアンナ医科大学……4名

その他
- ●一橋大学……28名
- ●東京工業大学……43名
- ●東京農工大学……4名
- ●お茶の水女子大学……4名
- ●千葉大学(医学部以外)……3名
- ●筑波大学……1名
- ●東京学芸大学……1名
- ●大阪大学……4名
- ●京都大学(医学部以外)……11名
- ●早稲田大学……227名
- ●慶応義塾大学……166名
- ●上智大学……65名
- ●東京理科大……89名

その他、多数合格。

特報 2020年合格実績!

昨年は単年度で東大8名、医学部31名 計39名を合格させました!!

<国公立(医歯薬除く)>
- ●東京大学
  - 文Ⅰ……2名
  - 文Ⅱ……1名
  - 文Ⅲ……1名
  - 理Ⅰ……4名
- ●京都大学……1名
- ●一橋大学……2名
- ●東京工業大学……3名

<医学部・薬学部>
- ●東京医科歯科大学(国立)…1名
- ●神戸大学(国立)……1名
- ●広島大学(国立)……1名
- ●秋田大学(国立)……1名
- ●浜松医科大学(国立)……2名
- ●東京慈恵会医科大学……2名
- ●順天堂大学……2名
- ●日本医科大学……2名
- ●昭和大学……2名
- ●国際医療福祉大学……4名
- ●東邦大学……2名
- ●東京女子医科大学……2名
- ●聖マリアンナ医科大学……1名
- ●獨協医科大学……2名
- ●北里大学……1名
- ●杏林大学……2名
- ●福岡大学……1名
- ●帝京大学……1名
- ●東海大学……1名

<難関私大>
- ●早稲田大学……39名
- ●慶応義塾大学……31名

その他、多数合格。

【 特 報 】
医学部を目指す生徒、保護者の皆様の熱い要望にお応えして『医学部セミナー2019』開催!!

近年ますます人気が高まり、難化が進む医学部に合格するにはどうすればよいか・・・・!?
成増塾が熱い要望にお応えして企画・開催した『医学部セミナー』。
2019年8月11日(日)成増塾 高場馬場校にて開催されました。

参加者は、左から高島塾長、現役医師の友利 伸也さん、数学/化学担当の森本講師、日大医学部の友田 英理さん、慈恵会医大の九島 遼大さん、司会でOB会長の坂本 亮さん。

高島塾長の挨拶で始まった「医学部セミナー2019」。第1部は数学・化学担当の森本講師による講演です。

【第1部 森本 恭彰講師 講演】

医学部合格に向けて
最新の傾向と対策について
そしてより具体的な入試問題の分析。

【主な内容】

- 国立か私立か？受験内容の違いについて
- 国立大学医学部のセンター得点率は東大、京大と同レベル
- 国立私立併願と国立専願では異なる勉強の仕方
- 私立大学医学部の受験について
- 大学の入試日程を考慮した受験をすることが重要
- 私大医学部受験は体力も考慮する必要がある
- 過去問の分析が入試の成否のカギを握る
- 偏差値の低い大学の問題が易しいとは限らない
- 受験校を決めるのは問題との相性も大切
- 英語が得意でも問題との相性が大切
- 化学の問題はクセが少ない
- 過去問研究はいつからするべきか
- 多浪生でも合格する大学はある

森本講師による熱気溢れる講演は、当日ご来場いただいた医学部合格を目指す中1生から高卒生までの生徒さんと保護者の皆さまに大好評をいただきました。

【医学部セミナー2019 第2部】
成増塾OBの現役医師が座談会に参加。医学部合格から医学部での6年間の道程。

●出席者
左から
九島 遼大さん
（慈恵会医学大学医学部）
友田 英里さん
（日本大学医学部）
友利 伸也さん
（帝京大学医学部）

●司会・進行役
坂本 亮さん
（成増塾OB会会長）

成増塾から医学部を目指す1人でも多くの生徒に合格して欲しいという熱い気持ちで、3名のOBの皆さんが座談会にかけつけてくれました。現役の医師と現役の医学部生がそれぞれ歩んだ道程を語ります。

坂本　こんにちは！今日はお忙しい中をお集まりいただきありがとうございます。私は2000年に成増塾を卒業した坂本と申します。現在会計士事務所を経営しております。また、成増塾の卒業生が入会するOB会の会長を務めさせていただいております。

今日は成増塾出身の３人の医学部合格者に来ていただき医学部を目指す皆さんのために役に立つ情報をお届けすることができればと思います。では最初に３人の方に自己紹介をしていただきましょう。

友利　私は2012年成増塾を卒業しました。帝京大学医学部に入学し、現在は松戸の病院で初期研修をしています。私は、本日は医学部に合格した後、医師になるまでの話をさせていただきたいと思います。

友田　こんにちは。私は2016年に成増塾を卒業した友田と申します。現在、日本大学医学部に在籍しています。今日は、医学部はどんなところか、という話をさせていただきます。

九島　こんにちは。私は2019年に成増塾を卒業し、慈恵医科大学に合格しました。私はまだ今年受験を経験したばかりなのでそれについてお話をさせていただきたいと思います。

坂本　はい、ありがとうございます。では、早速ですが、九島さんにお尋ねしようと思います。九島さんの得意科目はなんでしたか。

九島　はい。英語と化学が得意科目でした。

【医学部を目指したきっかけ】

坂本　いつから医学部を目指されていたのですか？

九島　そうですね、僕の場合、両親が医者ということもあり、実は、将来は医者になることしか考えていませんでした。僕は中高一貫校の暁星というところに通っていたのですが、周囲の人たちも医学部志望者が多く、自然と医学部を目指すよう

になりました。

坂本　なるほど。そうなんですね。ところで、医学部といってもたくさんの大学があると思うのですが、学校選びはどのようにされたのですか？

【なぜ慈恵医大を第一志望にしたのか】

九島　僕の場合、高３の５月まで部活をやっており、受験まで時間があまりなかったので国立大学は諦め、最初から私立専願で行きました。私立の中で、現役で行ける一番レベルの高い大学にしようと思いました。

坂本　そうなんですね。それで結果的には第一志望の慈恵医大に合格することができたのですね。いま入試を振り返ってみた時、入試ではどの科目が一番重要だと思いましたか？

【英語の学力が合格の決め手】

九島　僕の場合はやっぱり英語ですね。英語の配点が高い大学もあり、英語ができないとそれだけで志望校からはずれてしまうと感じました。また、英語は数学と違って高得点を安定してとることができるのでその意味でも重要だと思います。

坂本　なるほど。では、逆に苦手な科目は何でしたか？

【勉強時間の配分】

九島　そうですね。数学が苦手で最後まで足を引っ張られたかなと思います。ただ、数学は難しい問題は、解ける人があまりいないのでそれほど差がつかなかったのではないかと思います。

坂本　九島さんは私立専願なので受験に必要な科目は英、数、理科２科目ですよね。これらの科目に使った勉強時間の配分はどんな感じでしたか？

九島　僕の場合、先ほども言ったように英語が得意科目でしたので英語は高３の夏くらいまでには実戦形式で勉強できる学力がついていました。そこで夏休み中は、英語は朝の２時間くらいを使って長文問題を解くといったことしかやりませんでした。残りの時間は数学と理科にあてました。受験直前の時期には理科を集中的に勉強していました。

坂本　なるほど。それらの科目の時間を比で表すとどんな感じになりますか？

九島　そうですね、夏休み中は英語、数学、理科の配分が、２:4:4という感じだと思います。それが直前には2:2:6くらいになりました。

【過去問分析について】

坂本　ありがとうございます。ところで受験において過去問分析が大事だ、とは昔から言われていることだと思いますが、過去問分析はいつごろから始められましたか？

九島　英語は夏に２年分くらいを解いてみました。他の科目は12月中旬の学校のテストが終わってから始めました。直前のその時期には勉強時間の大半は過去問を解くことに充てていました。

坂本　そうなんですね。過去問の分析は本番では役に立ちましたか？

九島　はい、とても役に立ちました。入試問題の過去問は、よく言われていることですが「志望大学に合格するために一番いい問題」なので過去問分析は本当に徹底的に行いました。過去問を分析してその大学の問題に慣れることはとても重要だと思います。入試問題の出題傾向や出題される問題の範囲は決まっているのでそれを、身をもって確かめることはとても重要です。過去問を解いて自分に足りないところを発見できたのでそれをきっかけに弱点を補強することもできました。

坂本　なるほど。過去問の大切さを九島さんは身をもって経験されたのですね。それはとても貴重なお話ですね。受験勉強で身につけたことは大学

緊張気味のOBの皆さん。司会を務めた成増塾OB会会長の坂本さんのさわやかな笑顔が3人をリラックスさせます。

で役に立っていますか？

【英語は医師になってからも重要】

九島　はい、入学して１年目はいわゆる教養科目が多いので役に立っています。ただ、今後のことを考えると、数学の問題を解く学力はあまり問われないと思うのですが、英語に関しては論文を読んだり書いたりするのに直接役に立つと思います。医師である両親を見ていても英語の論文を読んだり書いたりしていますのでそれがよくわかります。

坂本　受験で勉強したこと、特に英語はこれからもずっと役に立つんですね。
ありがとうございました。
では、次に友田さんに医学部生の毎日の生活について聞いてみたいと思います。
友田さんは今２年生ですが医学部ではどういったことを勉強されているのですか？

【医学部生の毎日】

友田　はい、医学部での勉強内容は私が在籍している日大の場合は１年目に基礎科目、２年目に「人体がいかにして正常に動くのか」という正常値の働き、３年目に病気の話、４年目に実習といった感じです。

坂本　週に何日大学には通われているのですか？

友田　週５日です。私の毎日は高校生の時とほぼ変わらなくて、朝９時から始まってふつうは３時ごろまで、遅い時には夕方の５時半くらいまで授業があります。お昼休みは一時間くらいです。

坂本　課外活動は何かされているのですか？

現役医師の友利さんは医師としての日常をこの日のために自ら作ったパワーポイントで説明してくれました。

友田　はい、私は弓道部に所属しています。また救急救命の資格取得に向けたACLSという部活もしています。

坂本　それはどのような活動をするのですか？

友田　人が倒れた時などの心肺蘇生や心臓マッサージの方法を身に着けていきます。全国大会もありそれに向けてみんなで活動を行います。部活動はそれほど大変ではありません。

坂本　そうなんですね。医学部に入ってよかったことは何でしょうか？

友田　医学部は他の学部とは異なり医学部に在籍する130名全員が同じ授業を受けて試験を乗り越えていくので友達ができやすいです。

坂本　130名なんですね。友利さんの大学は１学年何人ですか？

友利　僕のところは160人くらいでした。ただ、僕の大学は留年する人も多く２０-３０人が留年していました。

坂本　留年が多いんですね。学年を超えた絆ができるかもしれませんね（笑）
九島さんのところは何人ですか？

九島　慈恵医大は110人です。留年はほとんどないですね。

坂本　他大学との交流はありますか？

友利　僕はソフトテニス部に所属していました。他大の医学部の人と大会等で交流することはあります。

【医学部での６年間について】

坂本　なるほど。友利さんは現在病院で初期研修をされているとおっしゃっていましたが、医学部生の６年間について簡単に説明していただけますか？

友利　はい。僕の大学の場合、１年から３年までで、教養科目、基礎医学、臨床医学を学びます。４年になると病院実習に出るための試験であるCBTやOSCEといったものを受験することになります。CBTはパソコンで行う試験です。またOSCEは模擬患者を使って行います。４年時は見学型の臨床実習があります。そして５年になると

参加型臨床実習というものがあります。６年時には選択の臨床実習があり、初期研修の研修先の病院を決めるマッチングというものも行われます。その後卒業試験と国家試験があります。医師国家試験にも予備校がありみんなで協力して乗り越えていくという感じです。国家試験に合格すると研修先の病院に配属されることになります。

坂本　試験がかなりたくさんあるんですね。卒業試験や国家試験に落ちてしまうとどうなるのですか？

友利　国家試験に落ちると決まっていた研修先の採用も取り消されることになります。

【医師に問われる資質】

坂本　そうなんですね。友利さんに一つお聞きしたいのですが、医師に向いている性格とか向いていない性格といったものはあるのでしょうか？

友利　そうですね。臨床に行く人は患者さんや患者さんの家族とのコミュニケーションが重要になりますので勉強以外でもそういう能力が必要になるとは思います。また、医療の世界は日々進歩していますので絶えず勉強をし続けることも求められると思います。

【高校時代を振り返って】

坂本　高校生の時の自分を振り返って、何をやっておけばよかったと思いますか？

友利　入試で合格するためには基礎的な学力を早いうちに身につけておくことはもちろんですが、高校生の時は部活や旅行などをして見聞を広めておくことも大事だと思います。

坂本　医師になってよかったと思うのはどういう時ですか？

友利　ある時、救急搬送されてきた患者さんがいました。僕たちのチームの判断がよかったためその患者さんの家族の方から感謝の言葉をもらえた時は凄く嬉しかったです。僕はまだ研修医ですが、毎日そういう経験ができます。

【医学部を目指すみなさんへのメッセージ】

坂本　そうなんですね。医師は人の命を預かる職業だから責任も重い反面、やりがいもすごくあるということですね。では、最後に３人に医学部を目指す生徒さんのために一言ずつメッセージを頂けますか？

九島　僕は夏休みの60日間集中して勉強することでかなり合格に近づけたと思います。その意味で「夏を制する者は受験を制する」という言葉は正しいと思います。夏休みに頑張れば秋以降の勉強にもつながると思うので是非、夏休みを大切にしてください。

友田　私は受験の前には自分が受かることを信じることができず、すごく不安な気持ちになっていました。ただ、それを乗り越えて合格することができました。皆さんも苦しい状況を乗り越えることができればその後の人生にもきっと役に立つと思って頑張ってください。

友利　医学部は１年から６年まで毎日勉強が続きます。医学部受験の時に勉強の習慣を身につけることはとても大切だと思います。

坂本　ありがとうございました。今日の３人のお話が医学部を目指す皆さんに少しでも役に立ってくれればうれしいです。

現役医師と現役医学部生の体験談と日常を知ることは、医学部を目指す生徒の皆さんには大変興味深く、参加者全員が話しに聞き入っていました。

合格祝賀会

毎年3月、成増塾では合格祝賀会を盛大に開催します!
晴れて志望校に合格した卒業生の皆さん、満面の笑顔です!!

表参道の素敵なパーティー・スペース「キハチ 青山本店」で開催された、合格祝賀会の模様を紹介いたします。

受験を終え、新しい生活への準備が始まる忙しい時期にも関わらず、多くの方々にご参加いただきました。

美味しい食事に、楽しいゲーム、そして感動と笑いのスピーチの数々・・・参加した卒業生の皆さんは満面の笑顔に満ち溢れておりました。

高島塾長自ら企画・司会を務める"恒例チーム別ビンゴクイズ大会"は毎年大好評!

用意された数々の美味しい料理が"真昼の饗宴"を彩ります。

大好きなワインを片手に満面の笑みを見せる門脇講師。苦労を共にした講師陣も最良の日を迎えました。

森本講師と押川講師に囲まれて思い出話しに花が咲きます。

【成増塾 特別講演会】

成増塾では、様々な分野で活躍する一流の方々を招いて講演会を行っております。過去には統合医療の分野の第一人者である東京女子医大教授、川嶋先生、数学者のピーターフランクルさん、建築家の手塚貴晴さんらをお招きしました。

川嶋先生からは医学部を目指す生徒達に「医者の仕事は大変だが、多くの人の命を救うことができ、それだけやりがいもあるので頑張ってほしい」と励ましのエールをいただきました。

世界を舞台に活躍する有名な建築家、手塚貴晴さんと、早稲田の建築科で勉強している礒部さんとのツーショット。

合格者の皆さんからのメッセージ動画も掲載!!

ホームページも是非ご覧下さい。 成増塾 検索

インターネット授業

成増塾では、体験授業を受ける前に授業がどんな様子か知りたい、という方のために授業のダイジェスト版をインターネットで提供しております。インターネット授業は現在のところ一部の講師の授業のみ視聴できますが、今後、講座数を増やしていく予定です。

▲インターネット体験授業の様子。ホームページからいつでもご覧になることができます。

各校舎とも必ず電話で予約してからお越しください。●電話受付：月曜日～土曜日 17:00～22:00

※予約なしにお越しいただいても、担当者不在のため十分な対応を致しかねる場合があります。

成増校

TEL.03-5997-7512

〒175-0094 板橋区成増2-17-10タカスビル4F

東武東上線 成増駅南口から徒歩3分。
東京メトロ有楽町線 成増駅2番出口から左へ、2軒目のビル。

高田馬場校

TEL.03-5285-0554

本校：〒169-0075 新宿区高田馬場1-28-3 工新ビル3F

JR山手線・西武新宿線高田馬場駅 戸山口から徒歩1分。
「すき家」の隣のビル、2Fは「赤門クリニック」。

下高井戸校

TEL.03-3324-6466

〒168-0073 杉並区下高井戸1-1-6 第15通南 ビル2F

京王線・東急世田谷線 下高井戸駅から徒歩1分。
下高井戸市場入口より進む。
1Fは処方箋薬局。

西葛西校

TEL.03-3804-4584

〒134-0088 江戸川区西葛西3-15-9 共栄ビル8F

東京メトロ東西線 西葛西駅北口から 徒歩1分。

白金台校

TEL.03-6409-6357

〒108-0071 港区白金台3-14-4 LBビルディング3F

都営三田線・東京メトロ南北線 白金台駅1番出口から左へすぐ。

ホームページもご覧下さい！ 成増塾 検索

2020_12